創立百五十周年記念誌



すさみ町立江住小学校

令和五年三月閉校





創立百五十周年記念誌



すさみ町立江住小学校

令和五年三月閉校





江住小学校校歌

朝夕あおぐ 清水山
すがたは高く かげ清く
動かぬ力 大空に
雨風しのぎ そびえ立つ
いさや江住の 学び子よ
世にたぐいなき 人となれ

日ごとのながめ 熊野灘
思いは広く 知恵深く
たゆまぬ力 堂々と
たたゆる富は 限りなし
いざや江住の 学び子よ
世にたぐいなき 人となれ





令和２年度　最後の入学式



平成２８年　入学式



平成２３年　春の遠足（里野の浜）



平成２４年　春の遠足



平成２３年　修学旅行



平成２９年　修学旅行



平成３０年　田植え



令和２年　プール水泳



平成２３年　けんゆう苑との七夕交流



平成２７年　参観日（親子レクリエーション）



平成２７年　連合運動会



令和２年　連合運動会



平成２３年　稲刈り



平成２８年　朝マラソン



令和４年　「みんなの教室」（書写）



令和元年　地域合同避難訓練



平成３０年　芋ほり



平成２４年　地域学習発表会（江須之川）



平成２６年　地域学習発表会（里野）



平成２６年　校内マラソン大会



令和３年　お別れ遠足



平成２７年　中学生も出席した卒業式







令和２年度　最後の卒業式



昭和51年頃



昭和51年頃　校舎前 泉水



昭和55年 小中学校音楽会



昭和58年頃 歯みがき指導



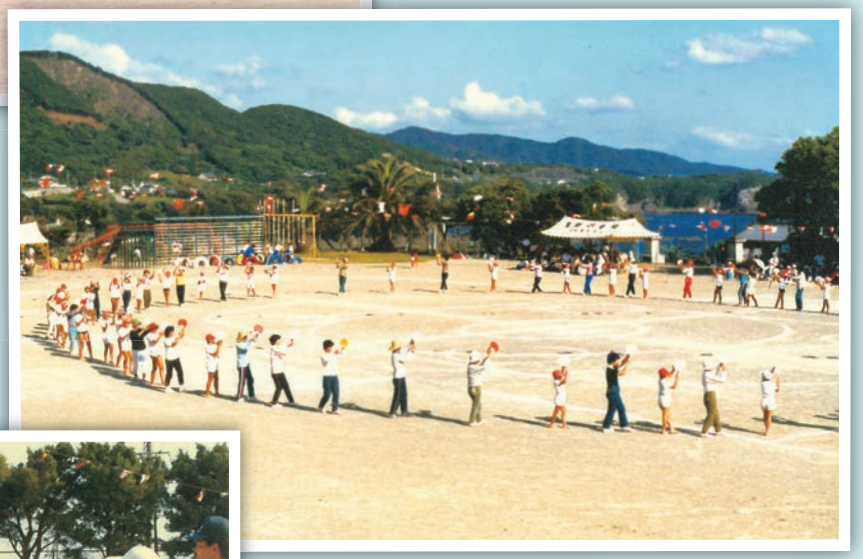
昭和58年頃　ユニセフ募金



劇



昭和59年　運動会



昭和59年　運動会



昭和61年　運動会



たこあげ大会



昭和60年　佐本川でのキャンプ

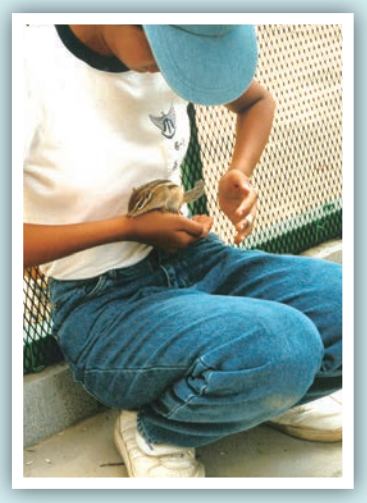




夏休みの作品



平成10年　おもちつき



平成10年　リスの飼育



平成１１年頃　運動会教職員の仮装



平成１２年　授業風景



平成１３年頃の郷土資料室



人権の花活動



平成２４年５月２１日　金環日食



平成２７年３月１６日　みんなの花道



平成２８年１月２５日



平成２８年４月２１日　お地蔵さんの花壇の苗植え

創立百五十周年記念誌　　目次

江住小学校全景
校旗・校歌
学校の一年・懐かしい学校風景

1　百五十周年・閉校にあたって …… 12

江住小学校150周年・閉校記念事業実行委員会委員長・
江住小学校育友会会長　　山形　勇真
すさみ町長　　岩田　　勉
すさみ町教育委員会教育長　　坂本　祐二
すさみ町立江住小学校長　　山口　仁美
校舎内の様子（写真）

2　江住小学校及び地域の沿革 …… 18

3　江住小学校の思い出 …… 26

卒業生
教職員

4　卒業写真及び卒業生名簿・歴代教職員名簿 …… 46

卒業写真及び卒業生名簿（昭和50年度～令和2年度）
歴代校長及び教職員名簿（昭和50年度～令和4年度）

5　ありがとう江住小学校 …… 78

在校生・教職員のことばと写真

6　百五十周年・閉校記念事業の概要 …… 82

『創立百五十周年記念誌』の編集
『江住小学校閉校記念碑』の建立
『映像記録』の編集
学校開放・見学事業
江住小学校閉校式・150周年記念行事

7　関連資料 …… 84

児童数の推移
江住、江須之川、里野、大鎌地区の人口及び世帯数の推移
地域の歩み
校地内にある石碑一覧
校長室書庫に保存されていた3枚の資料
学校と地域の様子を伝える新聞記事

8　木村奨学会 …… 98

編集後記
実行委員会名簿
参考資料一覧
昭和34～40年頃の江住地域の地図

百五十周年・閉校にあたって



江住小学校150周年・閉校記念事業実行委員会　委員長
江住小学校育友会　会長

山形　勇真

150年という長く深い歴史を積み重ねてきた江住小学校。そんな小学校に6年間通い卒業をすることができたこと、そして150周年をすぐ近くでお祝いできることを嬉しく思います。

記念式典の開催や記念誌を作るために立ち上げられた実行委員にも、実行委員長として携わることができて本当に光栄でした。皆さんのアイデアや行動がこうして一生モノの形として残せたことを誇りに思い感謝しています。

この記念誌を作る過程で、江住小学校に通っていた当時を振り返っていました。あの頃は特に運動に力を入れていた影響か、リレーやマラソン・一輪車・縄跳びといった競技を生徒一人ひとりが6年間ずっと一生懸命になって挑戦していました。これらを通じて、できない悔しさとできた時の喜びや達成感を得ることができ、大人になった今ではこの学びを根底に悔しさをバネにしたり時には立ち止まって方向転換してみたり挑戦する喜びを実感しながら生きています。

インコやリス、熱帯魚なども学校で飼育をしていて、当番に分かれて世話もしていました。役割を分担することの大切さや生き物の命の尊さを学ばせていただきました。楽しいことと同じくらい苦しかったことも多かった江住小学校での生活のおかげで今の私があります。

同時に、江住小学校が今年度で閉校となり寂しい思いもあります。私や私の息子と娘もこの江住小学校でお世話になり、これからもずっと続いていくのだろうと漠然と思っていたのですが、これも時代なのだろうと感じています。私を含めこの江住小学校で学んだ皆さんも学校への敬意と感謝の気持ちでいっぱいであることでしょう。

創立150周年を迎えた歴史ある江住小学校を心からお祝い申し上げます。同時に150年間本当にお疲れ様でした。

最後になりましたが、長きにわたり江住小学校に多大なるご協力、ご支援を賜りました地域の皆様、教職員の皆様をはじめ多くの皆様に心から感謝の意を表します。

また、この度の記念事業に際し全面的なご支援を賜りました木村奨学会様はじめ、お力添えいただいたすべての皆様に心より厚く御礼申し上げます。



すさみ町長

岩田　勉

平素は江住区・江須の川区・里野区・大鎌区の皆様方には、すさみ町行政にご理解・ご支援をいただきまして厚くお礼申し上げます。

このたび、江住小学校が令和５年３月31日をもって閉校する運びとなりました。すさみ町では過疎化や少子化の進行により児童生徒数の減少が続いております。最近では平成29年に見老津小学校、江住中学校が閉校し、そして今回は、江住小学校が周参見小学校と統合することになりました。

150年の歴史と伝統のある江住小学校としての使命を終えることは、すさみ町のまちづくりにとりましても大変残念なことであります。昭和23年には全校児童数349名を誇りましたが、約70年後の令和元年度には９名と激減しています。児童の社会性の育ち、授業実施、教職員組織体制など学校運営上大変な困難を抱えており、用務員・養護支援員等を町費で補填するなど、町としても可能な限り支援して参りました。保護者や地域の方々が、「閉校は大変寂しいが、教育環境の充実したところで多くの友達と学校生活を送ることが児童のためになる。」との判断にたち、統合を決断されたと聞いております。

当町では、第５次すさみ町長期総合計画に基づき「全ての町民が『今後も住み続けたい』と考え、町外の人からは『住んでみたい』『もう一度行きたい』と思っていただけるまちづくり」を基本方針とし、2045年の町の将来推計人口約1700人を目標に以下のような取組を進めています。南海トラフ巨大地震への備えとして公共施設の高台移転、避難タワーや避難所の建設、子育て支援として小中学校の給食費無料、高校通学費等の助成、18歳までの医療費の無料化などです。今後も安心して当町で子育てしていただけるよう環境整備に取り組んで参ります。

学校沿革史等によりますと、江住小学校は明治６年に創立。江須之川小学校と合併、見老津小学校の独立、里野小学校、大鎌小学校の統合等の変遷を経ながら今日に至っています。平成19年の児童数は25名で、平成19年度より完全複式校となっています。なお、現在の校舎は昭和47年に完成しました。そして、今年度は学校創立150周年にあたります。奇しくも閉校と学校創立150周年が同年になったわけですが、児童や保護者、地域住民とともに、地域の学校として歩み、その使命を果たし終え、本日を迎えるに至りました。なお、跡地の利用につきましては、江住区の活性化に役立つように努めて参ります。

いよいよ令和５年４月からは心機一転、新しい学校で新しい友達をたくさん作り、切磋琢磨しながら元気いっぱい楽しい学校生活を送ってくれるものと期待しております。

最後になりましたが、本校教育の充実・発展に尽くされました歴代の校長先生・教職員の方々、並びに学校の応援団でありました保護者・地域の皆様方に深甚なる敬意と感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。



すさみ町教育委員会　教育長

坂本　祐二

すさみ町立江住小学校の閉校にあたり、すさみ町教育委員会を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。平素は町の教育行政にご理解・ご支援をいただきまして厚くお礼申し上げます。

このたび、江住小学校は令和５年３月31日をもって閉校し、周参見小学校と統合することになりました。すさみ町では少子化による児童生徒数の減少等により学校統合問題に取り組んで参りました。町教育委員会は平成19年３月に「すさみ町小中学校統合問題検討委員会」を設け、学校統合についての検討をお願いしました。その結果「小学校１校、中学校１校が適正である」との答申を受けました。それを基に「すさみ町学校統合計画」を策定し、「児童生徒の教育環境の整備を図り、総合的な教育効果の向上を目指す」ことをねらいとして、学校統合を進めて参りました。

歴史と伝統のある地域の学校を閉じることは、地域の文化の拠点がなくなることであり、地域住民の学校への思い、学校が地域において果たしてきた役割、学校と地域の密接な関係、児童や保護者の思いなどを考えると、大変悩ましく切実な課題であります。

しかし、町議会をはじめ保護者や地域の方々と話し合いを続ける中で、「150年続いてきた学校を閉じることは大変寂しいが、児童のことを第一に考えると統合はやむを得ない。より充実した教育環境の整備を図り、総合的な教育効果の向上を目指していくことが児童の将来のためになる。」との最終判断をいただきました。

学校沿革史等によりますと、江住小学校は明治６年に創立。江須之川小学校と合併、見老津小学校の独立、里野小学校、大鎌小学校の統合等の変遷を経ながら今日に至っています。平成19年の児童数は25名で、平成19年度より完全複式校となっています。なお、現在の校舎は昭和47年に完成しました。そして、今年度は学校創立150周年にあたります。奇しくも閉校と学校創立150周年が同年になったわけですが、児童や保護者、地域住民とともに、地域の学校として歩み、その使命を果たし終え、本日を迎えるに至りました。このことは、今までの取組を振り返ってみると、関係者一同、誠に感慨深いものがあります。

令和５年４月から周参見小学校の一員として、新しい友達をいっぱい作り、学習や運動を競い合って笑顔かがやく学校生活を送ってくれることを切に願っております。

最後になりましたが、本校教育の充実・発展に尽くされました歴代の校長先生はじめ教職員の方々、並びに学校を支援してくれました保護者・地域の皆様方に深く感謝申し上げ、ご挨拶といたします。



すさみ町立江住小学校　校長

山口　仁美

眼前に広がる熊野灘、遥か彼方に見える潮岬。この素晴らしい景色を目にしたあの日、この学校で校長として初めて勤務できる喜びに私は胸が震えました。

着任後、南弥右衛門像周りで遊ぶ子どもたちが南氏のことをあまり知らないことを知り、せめて敷地内にある銅像や石碑の由来は知っておいてもらいたいと２年生～６年生までの全校児童９人と劇「南弥右衛門物語」を創作しました。幸い「南弥右衛門物語」は、江住・里野・江須之川の地域学習発表会やすさみ文化祭、最後はＢｉｇ-ｕで開催された県教育委員会のフォーラムでも約200人の観客を前に披露することができました。初めての大舞台で９人の子どもたちは力一杯演技し、全員で歌う校歌が会場いっぱいに響きました。

こうして、２年目は私財を投じ熊野私学校を創設した城桂谷先生の劇「城桂谷物語」を、３年目は江住の子どもたちが登校の際に登ってくる階段が昔は「お待ちの坂」と呼ばれていたと聞き劇「お待ちの坂物語」を、４年目は本校の150年を振り返る劇「江住小学校物語」を子どもたちや先生方と創作し、地域学習発表会で発表しました。

脚本を書く際に校長室にあった江住小学校百年史をじっくり読み返しますと、学校の歴史だけにとどまらず地域の歴史や文化が生き生き描かれていることに驚きます。150周年の節目にもぜひ学校、地域の歩みを後世に残したいと百年史の編集責任者でもあった小倉重起氏に相談し実行委員会の皆様のご協力を得ながら記念誌を発刊することができました。とりわけ小倉氏から多くのお力添えをいただけたことは本当にありがたいことでした。

この４年間で本校と地域の歴史について調べ記念誌の編集にも携わりながら強く感じることは、この地域の「人を育て教育することに対しての惜しみない支援と情熱」です。着任して１年が過ぎようとした頃、コロナ禍での学校運営が全国で始まりました。そして、令和４年２月にロシアのウクライナ侵攻が始まり、今なお世界は混迷の時代の最中にいます。日本は少子高齢化による影響がいよいよ目に見えて生活に迫る時代に入ります。

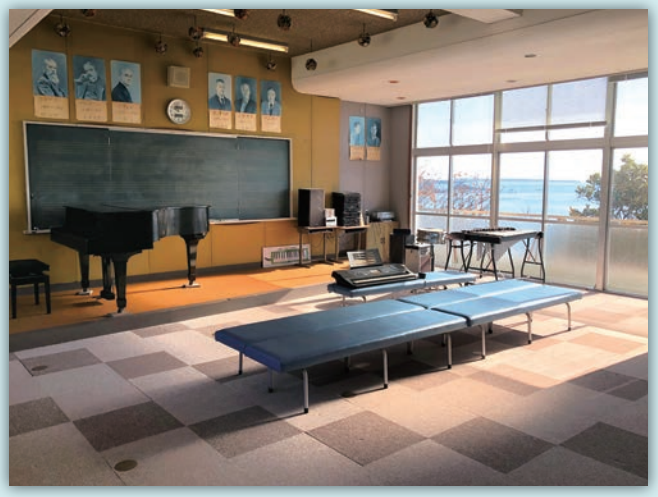
先の百年史で当時の校長古田耕次先生が「およそ歴史は『昨日を知って明日を夢みる』ためにこそ意義がある」と記されています。今こそ先人に学ぶ時です。こんな時代だからこそ歴史から深く学び、「人を育て教育すること」にあらゆる叡智や支援を惜しみなく注ぐ時ではないでしょうか。

私たち教職員は、貴重な最後の時に本校に奉職できましたことを心から誇りに思い、この地で学んだ教育への真摯な思いをしっかりと受け継いでいきたいと存じます。

最後にこの150年間、本校の教育活動にご支援ご尽力いただきましたすべての皆様方に厚く感謝を申し上げご挨拶といたします。とりわけ、木村奨学会様には150周年・閉校記念事業にあたり多大なご支援を賜りました。心より深く感謝申し上げます。



３階ベランダからの風景



音楽室



教室



体育館



児童の作品
（体育館）



江住　立体地図模型
（平成30年５月31日　江住公民館寄贈）



田上実氏の絵（玄関）



職員室



校長室

江住小学校及び地域の沿革

江住小学校及び地域の沿革

既に『江住小学校百年史』(昭和51年3月21日発行)が刊行されているので、ここでは昭和51年以降の沿革を詳述し、それ以前については概略とした。

(＊ … 主な地域の出来事)

明治　6．3．15	学校創立　潮音寺を借用して開校、子弟僅か20名に充たず
10．	校舎新築(JR江住駅周辺)　開校式に県令神山郡廉閣下来臨
10．	大扁額賜る　神山郡廉の書「江住小学校」賜る
10．	分教場創立　江須之川小学校創立
＊15．10	城桂谷氏　江住に熊野(ゆや)私学校を創立　(明治17年閉校)
18．	進修小学校　校名を改める(復元の年代は不明)
36．11	見老津小学校独立
37．11	江須之川分教場移転　校舎新築
39．	里野小学校独立
40．12．18	校地移転、校舎新築
大正　4．	浜を埋め立て、運動場に
＊10．11	潮音寺寺山の丘通称傘松の地に　城桂谷先生之碑建立
11．	寄贈　藤本五郎氏より理科備品等２万円
12．3．15	創立50周年記念祝賀式、増築校舎落成式
13．3．31	江須之川分校を廃止し、江須之川小学校創立
昭和　6．	寄贈　藤本政太郎氏より所有地提供される
6．3．27	江須之川小学校と合併
7．5．7	新校舎移転落成祝賀式
7．9．16	女児服制定
8．	向井文庫設置　向井徳寿氏の寄金
12．10．11	新校舎落成　３教室(うち青年学校１教室)
14．10．27	二宮尊徳翁銅像建立　校訓改訂　従来の「本分を守れ」から「至誠実行」に改訂
16．4．1	江住国民学校と改称
16．12．	二宮尊徳翁銅像　応召
18．12．5	楠公銅像応召
19．9．30	運動場を開墾し、さつまいも畑に
22．4．1	校名変更　江住国民学校を江住小学校に
22．12．1	学校給食開始(脱脂粉乳)
23．～	南弥右衛門氏など米国に移民された方々から学用品やお菓子が学校に届く
25．5．12	ＰＴＡ総会
28．3．15	創立80周年記念校内運動会

29. 4. 8	二代目二宮尊徳翁銅像除幕式
31. 10. 13	南弥右衛門翁之像除幕式
32. 2.	南弥右衛門氏よりグランドピアノ寄贈
33. 7. 4	勤評闘争にからみ、ＰＴＡ解散
35. 4. 23	育友会総会　昭和33年７月解散以来
38. 9. 16	ミルク（脱脂粉乳加工）給食開始
45. 9. 24	給食開始　センター方式
46. 4. 1	里野小学校と学校統合
47. 4. 5	新校舎落成式
47. 6. 10	運動場拡張工事完成
50. 3. 15	百二年の開校記念の会開催
50. 7. 15	水泳指導　ＮＨＫテレビ状況撮影（江須之川浜）
51. 3. 21	学校百周年記念及び体育館落成記念式典　約600名参加
	創立百周年記念として南與三郎氏より体育館にグランドピアノ寄贈
52. 8. 6	運動場に夜間照明施設完成
8. 25	関西大学混成合唱団(35名)来校。江住コーラスグループ「しおぎく」と合同音楽会
	聴衆300名余り
10. 25	西牟婁地方道徳教育研究会
＊12.	紀勢線電化
53. 3. 31	花壇コンクール入賞　県花壇コンクール優良賞（昭和55年まで）
53. 4. 1	大鎌小学校と学校統合　５年生児童１名町マイクロバスにて送迎
53. 6. 14	オアシス運動　道徳教育推進で地域ぐるみで
	あいさつ運動を展開
57. 8. 30	体育館渡り廊下に手洗い場新設
53. 11. 1	文部省指定道徳教育協同推進校研究発表会
53. 11. 14	秋の遠足　清水山登山（平成５年まで）
＊55. 3. 23	江住中学校舎落成式
56. 9. 12	学校給食による集団食中毒　児童約半数が罹患
＊59. 3. 22	日本花卉生産者大会が白浜町で開催　参加者のうち約400名が里野地区へ視察
	宮本治次氏が近畿農政局長賞を受賞
＊60. 3. 14	紀勢線のダイヤ改正とともに江住駅が無人化
61. 9. 8	給食室開設
61. 12. 10	健康優良校よい歯の学校に入選（平成４年まで）
＊62. 9. 25	すさみ町「村おこし実行委員会」による「童謡の集い」
	を紀南文化会館で開催　由紀さおり氏、安田祥子氏出演



３階音楽室にあるグランドピアノ



百周年祝賀会



大鎌小と学校統合



里野の花卉栽培（Ｈ24年地域学習）

	10．18	童謡公園開園式典　歌のおばさん安西愛子氏等出席　児童も参加し、「かにさん」を発表
＊63．	2．26	黒潮会創立50周年式典　大阪ホテルオークラにて開催　会員大阪157名　神戸46名
＊64．	5．28	童謡列車　天王寺から江住駅へ　約300名
＊平成　元．	1．31	江須之川に堅田種苗研究所開設起工　11月8日落成
	＊8．27	台風17号のため、江須崎の大ハカマカズラ倒木
	＊9．13	台風19号猛威　里野地区をはじめ花卉類甚大被害
		損害3，000万円以上
	10．16	県委託国語科研究発表会
	＊11．8	江住郵便局新局舎落成
2．	3．19	タイムカプセル埋蔵　体育庫横（平成12年まで）
4．	2．20	寄贈　阪神黒潮会有志（山形恒章会長）より　大時計
＊5．	3．14	江住保育所新園舎完成
	5．7	大竹正成氏の水田で田植え体験（秋には稲刈りも）
6．	3．10	５・６年生串本町大島一周サイクリングを行う
	＊4．13	江住ミニ福祉センター完成
	＊5．13	江住駐在所　江住駅前に移転完成
	7．20	プール完成　竣工式
	10．28	恒例の清水山登山を変更　以降、大鎌小学校跡地、潮岬等へ
＊7．	1．17	阪神淡路大震災が起き、被災した郷土出身者が多数一時帰郷
		家族や知人と連絡をとるため、数少ない公衆電話を利用
7．	2．9	町委託研究発表会（特別活動発表）
	＊11．9	江住地区を重点として防災計画策定
9．	3．24	平成８年度卒業生記念植樹
	5．31	第１回校内マラソン大会実施（江須之川地区）
	＊6．11	見老津駅にミニ水族館設置
	7．26	台風９号接近　体育館窓ガラス破損　５・６年教室雨漏れ
		プール機械故障
	8．17	天理市の妙本次男氏の世話で、リス小屋を設置
		シマリス２匹寄贈を受ける
＊10．	3．11	江須之川に町営住宅８戸完成
	3．15	Ｓ＆Ｂマラソン大会（和歌山市）で、６年谷口裕亮さん優勝
		全国大会出場権を得る
	9．3	寄贈　木村奨学会よりコンピューター一式
	9．8	江住中学校に作家永六輔氏が来校し、「私の授業」と題し講演　５・６年児童参加
	9．27	運動会にて読売テレビ「遠くへ行きたい」の収録あり　女優伊藤かずえ氏来校


童謡列車


阪神黒潮会 寄贈 大時計


田植え体験


プール完成


リス小屋


永六輔氏 色紙

11.	1. 11	毎日放送記者来校　大鎌地区からのタクシー通学（1年児童）の収録を行う
		後日、「MBSナウ」で放映
	＊3.	和歌山県信用組合江住支店閉鎖
	3. 28	S＆Bマラソン全国大会(東京都)に6年津村若那さん出場　10位と健闘
	＊4. 27	童謡公園に「エビとカニの水族館」オープン
	7. 20	城桂谷先生之碑　本校校庭に移転し桂谷碑再建委員会
		(仲邦和代表)によって再建除幕式を行う　町文化財に指定
12.	3. 1	廃校になった大鎌小学校の校歌を児童の声で録音
		CD「すさみ町ふるさと校歌集(小学校編)」に収録
	11. 1	4年杉浦栄信さんの「エビの絵」が郵政大臣金賞を受賞
		平成13年のお年玉付き年賀はがきの図柄に採用される
	11. 7	町委託研究発表会（算数科・教具、図式の工夫で発表）
	13. 4	新教育課程実施に向けて総合的な学習始まる
	＊4. 8	江住上平見に介護老人保健施設「けんゆう苑」開所
	＊6.	里野集会所竣工（旧里野小学校敷地）
	8. 10	台風10号により　体育館渡り廊下の屋根はがれる　2階多目的室雨漏れ
	8. 18	保健室クーラー設置　プール地下出入り口扉設置(3カ所)
＊16.	7. 1	熊野古道長井坂が世界遺産に登録
	11. 12	町委託研究発表会（国語科で発表）
＊17.	7. 11	里野海水浴場でアカウミガメ産卵
18.	7. 2	本校児童がアカウミガメの赤ちゃん15匹を里野地区で放流
	9. 17	江住連合運動会開催（保、小、中、地域）
20.	11. 21	町教委指定研究発表会（国語科発表）
	＊11. 27	江住中学校(18名)「江須之川川口の生物について」総合的な学習の発表
21.	11. 14	藤本政實氏が江住文化祭に展示した
		C62(蒸気機関車)の模型を寄贈
	12. 8	出張学習発表会を江住公民館で行う
		(以降、江住区、里野区、江須之川区の3地区で地域学習発表会を行う)
23.	1. 22	校舎耐震工事が終了
	3. 11	東日本大震災が起き「大津波警報」発令のため、一昼夜校内に待機する
		＊江住海岸にも20ｃｍ内外の津波　漁港内の漁船も一斉に沖へ避難
	4. 1	江住中学校が江住小学校に移転し、同じ校舎に併設となる
	9. 2	台風12号接近　臨時休校とする
	＊9. 4	紀伊半島大水害
＊24.		津波対策のため里野、江住、江須之川地区で避難訓練が始まり、高台への避難路の整備進む


城桂谷先生之碑


大鎌小学校校歌収録



4年杉浦さんの
「エビの絵」


蒸気機関車

	11．16	町委託研究発表会（特別活動で発表）
＊25．	3．	江須之川「松の内地蔵」で線刻地蔵発見
		(町文化財候補・県下で４カ所のみ)
	＊4．	ＪＡ江住出張所閉店
	10．27	本校体育館を会場に、摂南大学建築学科防災研究
		グループ主催の防災運動会を行う
		(児童・生徒、地域住民対象)
26．	1． 7	全校児童で西津浦トンネル工事(紀勢自動車道)を見学
	10．16	紀の国トレイナートで、４年下村海月さんが最優秀
		デザイン賞を受賞
		受賞作品を基にしたデザイン列車で、全校児童が串本
		までの往復乗車体験をする
＊27．	8．	紀勢自動車道　江住まで開通(すさみ南インター)
	9．	道の駅「すさみ」開業　(旧江住中学校敷地)
		「すさみ町立エビとカニの水族館」
		旧江住中学校体育館に移転し、オープン
	＊9．24	江須崎等を含む枯木灘海岸が県立自然公園から吉野熊野国立公園に編入
＊28．	8．	コンビニエンスストア「ローソン江住店」開業
29．	3． 7	江住中学校閉校式典を行う　周参見中学校と統合へ
	3．31	江住中学校閉校
	6．26	２階３教室(低・中・高学年)にクーラー設置
	10．16	旧江住中学校職員室を改修し、学校図書館「えすみっ子」とする
	11． 2	和歌山県学校歯科保健優良校表彰受賞
30．	8．24	台風20号により体育館の屋根が被害を受け、雨漏れする
31．	2． 1	町教委指定研究発表会（特別の教科道徳で発表）
	3．10	体育館改修工事完成


ＪＡ江住出張所




紀の国トレイナートデザイン列車



道の駅すさみ


エビとカニの水族館


ローソン江住店






体育館改修工事

＊5．　1	元号が「平成」から「令和」となる
6．　3	寄贈　江住区水谷守氏から児童図書
9．26	江住公民館にて、全校児童と地域の方々との合同避難訓練（地震・津波想定）を行い、城の平まで避難する　以降、毎年実施
11．17	すさみ文化祭にて、地域学習発表会で披露した劇「南弥右衛門物語」を全校児童で発表
令和　2．　2．　9	県教委主催「きのくにコミュニティスクール推進フォーラム」（於：Ｂｉｇ-u）にて、観客約200名の前で劇「南弥右衛門物語」を全校児童で発表



すさみ文化祭



Big-uでの劇発表

3．　2	新型コロナウィルス感染症対策のため、一部地域を除き全国で臨時休校となる ～3月31日（お別れ遠足中止）
3．23	臨時休校中、卒業式を行う（来賓は教育長、育友会長のみ）
3．31	新型コロナウィルス感染症対策のため、離任式中止
4．　1	令和２年度から校区外通学が可能となり、児童３名が周参見小学校に転出　江住からは、町のコミュニティバスで通学
4．　8	新型コロナウィルス感染症対策のための臨時休校が延期となる　～５月31日
4．13	臨時休校中、新入生４名を迎え入学式を行う（来賓は教育委員会１名、育友会長のみ）
4．20	臨時休校期間中、本日より15日間の登校日を設定し、児童登校する
5．29	全校児童で校外学習に出かける（小倉重起氏の案内で江須崎見学、童謡公園で昼食後、磯遊び）
6．　1	通常授業再開、給食を開始する
8．　7	夏休み短縮のため、１学期終業式を行う ＊コロナ禍のため、お盆行事、秋祭り、町民運動会などが中止や縮小になる（～令和５年３月現在まで）
8．17	２学期始業式を行う
8．20	全校児童で野外学習を行う（琴の滝・雫の滝散策）　高学年５名は２階教室で宿泊する



校外学習（江須崎）



野外学習（雫の滝）

９．２２	江住連合運動会を開催　最後の連合運動会となる





最後の連合運動会

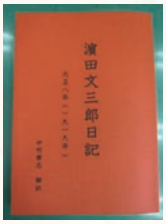
１０．１１	延期されていた周参見小学校との合同修学旅行に出発
	(新型コロナウィルス感染症対策のため行き先は県内となり、くじら博物館、大門坂歩き、
	熊野三山巡り、アドベンチャーワールド　ホテル浦島泊)
１１．　６	地域学習発表会にて、劇「城桂谷物語」を全校児童で発表
１１．２４	寄贈　木村奨学会よりコロナ禍の学校教育のためにと
	「デジタル教科書」
令和　３．　３．２３	第50回卒業式を行う　江住ジュニアアスリートクラブの
	提供で、記念の風船数百個を全校児童と参加者全員で空に飛ばす
４．　１	児童６名が周参見小学校に転出し、全校児童が２年生１名となる
５．１７	体育館和式トイレ一基を温水便座式トイレに改修
５．２０	地域の大人と子どもの学びの場「みんなの教室」を実施
	大人５名が参加し、音楽の授業(合奏)を行う
	以降、月１回で実施
＊５．３１	童謡公園敷地内に江須之川避難所竣工
６．２２	プール水泳は、周参見小学校プールで行い、周参見小学校との交流学習を
	開始する
９．１９	江住連合運動会は行わず、すさみ町小中学校運動会に参加
１１．　８	江住出身の山形友紀氏、江須之川出身の中村康志氏来校　大正時代に渡米
	した山形氏の祖父の日記『濵田文三郎日記』の寄贈を受ける
１１．２４	地域学習発表会にて、劇「お待ちの坂物語」を児童と職員
	で発表　今年度から江住区、江須之川区の２地区で開催
＊１１．	江住秋葉山(城の平の上)で中世の山城跡発見
４．　３．　１	年間200冊以上の読書を評価され、令和３年度きのくに
	読書活動優秀実践校表彰受賞
＊４．　３．３１	すさみ町立江住保育所閉所
６．２２	第１回江住小学校150周年記念事業実行委員会を行う
１１．２２	地域学習発表会にて、劇「江住小学校物語」を児童と職員で発表
５．　３．２６	江住小学校閉校式及び150周年・閉校記念行事を挙行する



劇「城桂谷物語」



「みんなの教室」



濵田文三郎日記



劇「お待ちの坂」



劇「江住小学校物語」

江住小学校の思い出



昭和61年　9月28日

江住小学校150周年に寄せて

昭和50年度卒業生　藤岡　和香（旧姓　塩谷）

私が江住小学校に入学したのは昭和45年（1970年）。まだ木造校舎の頃でした。

学校に上がっていくコンクリートの階段は段差が所々違っていて、ランドセルを背負った１年生にはなかなかの運動だったと思うのですが、裏の幼稚園から見ていた黒っぽい壁の大きな校舎に通えるというううれしさからでしょうか、しんどかったという記憶がありません。校舎の中は少しひんやりとしていて、校舎をつなぐ部分にある簀(す)の子がカタカタいう音が印象に残っています。その後現在の校舎の建設が始まり、「どんな校舎になるんだろう」と楽しみにしながら通っていました。

３年生では里野小学校との統合があって人数が増えました。年度途中からは新校舎に移転することになり、それぞれが自分の机といすを新校舎に運びました。新しい校舎は白く大きく、どこもピカピカで「これが私たちの学校だ」と誇らしい気持ちで、新校舎での勉強が始まりました。

私たちの学年はやんちゃで先生方をびっくりさせることもあったと思います。昼休みには運動場で活発に遊んでいた記憶があります。一方、運動が苦手な私はベランダでのんびりしていることもありました。南向きのベランダからは潮岬までよく見え、気持ちよかったことを覚えています。

本格的な給食が始まったのもこの頃でした。リフトで上がってくるカートで給食を運び、配膳してみんなで同じものを食べる。今では当たり前のことですが、私たちにはとても新鮮なことでした。

５年生の時には100周年記念式典があり、記念誌も発行されました。現在併設されている体育館の建設も行われていました。私が在籍した６年間は、本当に新しいことが次々起こった時期だったと思います。

今年度で江住小学校の150年という長い歴史が閉じられるということをつい先日伺いました。

江住を離れてもう40年近くなります。今考えると、太平洋を望むすばらしい環境で小学校生活を過ごせたことは本当に得難い経験でした。当たり前にそこにあり続けるものだと思っていた江住小学校が閉校されるのはとても寂しいです。ここから巣立っていった卒業生にとっても在校生にとっても多くの思い出の詰まった大切な場所です。今回150周年を記念して、思い出を綴らせていただけたことを光栄に思います。

最後に今まで関わって下さった先生方、卒業生、在校生、地元の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

白く美しい江住小学校

昭和56年度卒業生　向井　太志

小学生時代の担任の先生をよく記憶しています。１年生田中先生、２・３年生塩谷先生、４年生撫養（むや）先生、５・６年山本先生。撫養先生以外はすべて女性です。さすがに１年生当時の記憶は薄いですが、田中先生は、気品があり優しく美人な先生（たぶんこの認識は間違っていない）。塩谷先生は、文字が綺麗でピアノも上手、でも怒ると怖い。撫養先生は、信州大卒のカモシカ研究をしてきた新任で、明るく長身の男前で、たばこが好き。山本先生は、生徒一人一人に親身に接してくれて、優しさと強さを兼ね備えた方でした。

私は生意気で負けん気の強さが全面に出て、周囲に感情を爆発させては、塩谷先生・撫養先生・山本先生に何度もきつく叱られました。ただ、先生方に絞られはしましたが、当時先生に対する反発心のようなものは不思議と持たなかったと思います。先生方は、私を怒鳴りつけて気勢で圧倒するといったところがあったかもしれませんが（笑）、愛情をもって、真剣に接してくれました。だからこそ、小学生だった私の心に先生方の言葉が響いたと思うのです。もちろん、叱られてばかりでなく、高学年時の担任だった撫養先生や山本先生には褒めていただくこともありました。特に山本先生が、終礼時だったかに私が作った詩が素晴らしいと言ってクラスのみんなに詩を紹介して下さったことは、今でも忘れられません。

小学生時代の一番の思い出は、ソフトボールクラブかな。監督はカッコいいおじさんの久山（くやま）先生。里野の上霞君がピッチャーで、私がキャッチャー。ファーストの勝山君がチームの主砲で豪快なホームランを打っていました。放課後に練習して大会に参加し、６年生の夏にはすさみ町の大会で３連勝して優勝。西牟婁郡の大会にも参加して２連勝。ちなみにこの年は，女子もキックベースボールで町の大会で全勝して優勝だったと思います。どの大会でも半袖半パンの白い体操服で参加し、胸に「江住小」と書かれた布を縫い付けていた記憶があります。郡大会でいわゆる野球のユニフォームを着ていないのは江住小学校だけだったけれど、なぜか恥ずかしいとか羨ましいといった感覚はなかったですね。

そのほかには、「ボギー大佐」という曲で、西牟婁郡の合同演奏会（田辺市）に参加したことも記憶に残っている思い出です。男性で渋い感じの稲生（いなぶ）先生が熱心に指導して下さいました。賞などはいただけませんでしたが、一生懸命に練習して演奏会のときは凄く緊張しました。私はたしか木琴を担当したような・・・。やはり、生徒みんなでやった行事が思い出として残るものですね。

江住小学校は、白い校舎と綺麗な体育館が２つ並び、グラウンドも広く、丘の上に聳える立派な学校という印象が強いです。居心地の良い大好きな場所でした。私の心の中で江住小学校はいつまでも輝き続けています。

校長室に現れた救世主

昭和58年度卒業生　鵜飼　晋也

江住小学校が創立150周年を迎えられましたこと、関係者の皆様、地域の皆様、卒業生として共に心よりお喜び申し上げます。

創立150周年にあたって、日本での近代学校教育制度について調べたところ、1872年の学制によって始まっており、その翌年（明治６年）には江住小学校が創立されていたということがわかりました。さらに、創立された1873年は、「廃城令」が公布されるなどの歴史的な出来事があった年でもあり、時代の移り変わりと共に、先輩方や私達や後輩達を日々見守り続け、毎年送り出しながら、日本史と共に時代を歩んできたことを思い描き、150年という歳月の重みと、私達の母校の偉大さを改めて実感しました。

在学中は、作文や感想文が大の苦手だった私が、今回このような貴重なご依頼をいただき、少し戸惑いつつも、40年ほど前のことを懐かしく思い、心が温かくなるのを感じながら筆（今の時代ではスマホのメモ）をとっています。ちなみに、私が引き受けるきっかけとなったのは、山田とき代さん（昭和39年卒業生）の学校百年史の文章を拝見させていただいたことが後押ししました。山田先生（ドカベン先生）は、私の幼稚園の先生であり恩師ですが、まさかその頃は同じ江住小学校の卒業生だとは思ってもいませんでした。（「ひかりのくに」の本に【うがいちんや】」と親しみを込めて書いてくれたのを思い出します）

江住小学校には、私が住んでいた里野から海岸線に沿って通る国道42号線を熊野交通バスに揺られ、絶景の枯木灘を窓から眺めながら毎日通っていました。青空に映える白い校舎から海が一望でき、広々としたグラウンド（100m走の直線コースがとれる）がある、私達の学び舎のことを思うと、楽しく愉快に過ごした小学生時代に瞬間的に戻ることができます。それと同時に、幼く無邪気な自分も含めた同級生11名と、お世話になった恩師の方々の顔と名前がすべて思い浮かびます。

山本ちづき先生（１年、５年、６年）、塩谷先生（２年）、七尾先生（３年）、平野先生（４年）、那須先生（保健室）、給食のおばちゃん方

日下くん、藤内くん、中川くん、細谷くん、向井くん、片倉さん、坂下さん、橋本さん、舟井さん、丸島さん　〔転校：田中くん、三ツ矢くん〕

恩師の中でも山本ちづき先生には、小学校に上がってすぐの１年生と、中学校に上がる手前の５年生・６年生の過渡期に担任の先生として、在学中の６年間のうち３年間も学ばせていただいた一番の恩師です。山本先生は正義感が強く、男女平等を説き、その時代の最先端の考え方を持たれた方でした。差別をしてはいけないというその頃の気持ちは、今も私のポリシーとして大切にしています。

少し緩い話になりますが、ある日の給食の食べ物に嫌いなものがあり、数人が昼休みの間に食べきれなかったことがありました。午後の授業になっても食べ続けていました

が、授業の邪魔にならないように校長室に移動することになりました。そのまま放課後を迎え、そろそろ帰りのバスの時間だなぁと考えていたところ、１人が牛乳を飲んでいるときに大きなくしゃみをして、見事に皆の給食に撒き散らしたことで、最後まで食べられなくなりました‥。食べ物を粗末にしないという気持ちが強かった昭和の時代でしたが、そのときばかりは、その同級生のことが救世主に見えました。

一番の思い出と言えば、なんと言っても修学旅行です。京都・奈良・大阪に連れて行っていただいたことは、とても良い思い出になっています。今も神社・仏閣・城が好きな私は、京都の金閣寺や清水寺、奈良の法隆寺や若草山、大阪城などに行くと、必ず修学旅行のことや同級生のことを思い出します。

卒業した後も、在学中のようにいつでも小学校に行ける気がしていました。でも、中学校・高校に進学すると、その頃は世界が変わったように感じられ、あれだけお世話になった先生方には結局、何十年もお会いできていません。

いろいろな出来事があった６年間も、学校関係者の方々や地域の皆様によって脈々と受け継いでこられた150年の歴史や伝統からすると、ほんの一瞬の出来事です。しかし、恩師の方々に深く学び、同級生達と共に過ごしたかけがえのない日々は、私自身を成長させると共に、後に社会人になってからの心の豊かさや、前向きな気持ちに繋がっていて、さらに今後の人生の糧となっていくことでしょう。

この度は、創立150周年という大きな節目に貴重な機会をいただきましたこと、ご関係者様に深く感謝いたしますと共に、江住小学校の卒業生の皆様、地域の皆様、ご関係者の皆様のこれからの益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。



昭和５８年度　修学旅行（清水寺）

小学校の思い出

昭和62年度卒業生　竹村　貴代（旧姓 加藤）

小学校の校歌、1番なら今でも歌えます！

私は昭和57年４月から昭和63年３月までの６年間を江住小学校で過ごしました。原稿のお話を頂き、約40年前の小学生時代に思いを馳せる良い機会になりました。

１年生の担任は塩谷先生、２年生七尾先生、３年生小林先生、４年生は笠原先生、５年生多田先生、そして６年生は知野先生でした。入学してから卒業を迎えるまで、年々全校児童数は減少し、４年生（笠原先生）、６年生（知野先生）時には、一つ下の学年との複式学級を経験しました。

始業前の10分マラソンから一日が始まり、冬も夏も半袖半パンで過ごしました。週に何回かは「朝学」といって、10分程度の学習時間があったり、授業が２時間終わった中間休みにも、全校でリレーや縄跳びなど、何か活動（運動）していた記憶があります。高学年のころからは、空いた教室をランチルームにして、全校生徒が１つの教室で給食を頂きました。月に１回、江須ノ川方面へのマラソン大会があり、人数が少ないながらも、順位がつくことへの喜びやくやしさを経験し、しんどいことをやり遂げる精神力が鍛えられました。また、当時一輪車が導入され、休み時間には必死になって練習しました。（数年前に乗ってみたら、なんと、乗れたんです！）

遠足は、春は潮岬の芝生へ、秋は清水山、夏の水泳授業は自然の海、どんなイベントも学年関係なく、全校児童が一緒になって活動していました。勉強も運動も、イベントも放課後遊びも全力で楽しんでいたと思います。ストレスという言葉など、知りもしない小学生時代でした。町内の小学校での陸上記録会や音楽会など、他校との交流もありました。人数が少ないため、そのような活動も全児童が参加し、言い換えれば苦手な子にも得意な子にも、やりたい子もやりたくない子も、全員に能力を伸ばせるチャンスがあったのだと思います。

学年を超えた友だちが兄弟姉妹のように、先生や親御さん、地域の方々がみんなの家族のように成長を見守ってくださっていたんだと、こういう機会を通じて実感することができ、感慨深い気持ちです。

校歌にあるような「世にたぐいなき人」にはなれませんでしたが、今こうして心身共に健康に過ごせる私に成長させてくれた江住小学校と地域に感謝しています。

この度江住小学校の閉校が決まったとお聞きしました。江住中学校に続いて小学校までなくなってしまうのはとても寂しいですが、校舎や運動場を何らかの形で残してくだされればうれしいなと思います。

江住小学校開校150年に当たっての思い出

平成４年度卒業生　前田　有希茂

まずは、江住小学校開校150年おめでとうございます。

このような大きな節目となる折に40代を代表して原稿を書かせていただけることを光栄に思います。

さて、私が江住小学校を卒業して早30年となります。振り返りますと江住小学校での思い出はここでは書き切れないほど沢山の良い思い出に溢れており、今となっては本当に良き場所で学べたのだなと実感しています。

江住小学校は先生・保護者の方々・大自然の三者に育ててもらう場でした。中でも大自然に囲まれた環境が、のびのびと私たちを育ててくれたと思います。

自然と言えば一番はやはり水泳の授業です。当時、私たちが在学する江住小学校の校舎にはプールがありませんでした。当然体育の授業のカリキュラムには水泳が組み込まれているのですが、プールの無い我々江住小学校の生徒は全員が海で水泳の授業を受けたのでした。江須崎が一望できる海岸で先生も一緒になって海で水泳…今となって思えば授業というより海水浴でした。（笑）プールより透明度の高い海での水泳は贅沢な話ですよね。（笑）

水泳に並ぶのは年間行事の山登り。校歌にも出てくる【清水山】山頂への登山です。

私の記憶が確かなら毎年秋の山登りがあり全校生徒で清水山に登ります。低学年の子たちは山頂まで登ることができないため途中の山道までの散策でしたが、４～６年生の生徒は引率の先生の案内を受けて全員で山頂を目指しました。全員が山頂に到着した後は神様が祀られている祠の近くで輪になってお弁当を食べたのですが、そこで食べるお弁当が最高においしかったのを覚えています。

こうして私たちが山登りを安全に行えるためには影で保護者の方々が登山の日に先がけて山道の雑草や立木を刈り取ってくれて生徒たちの安全を確保してくれるありがたい協力があってこその行事だったのです。

毎朝裸足で走ったマラソン運動や運動会での一輪車マスゲームの過酷な練習。思い起こせばキリがありませんが、一ついえる事は「人と人の繋がり・助け合い」をしっかり学べた小学校生活でした。

おかげで私は丈夫な体を手に入れることができました。このように小学校から培ってきた身体能力を活かすことができ高校在学中には陸上部に在籍し大きな大会に出場することもできました。これも江住小学校で学べたおかげだと思っています。

最後になりましたが、我々江住小学校卒業生「江住の学び子」は江住小学校の事を大好きな子どもばかりです。幾つになっても江住小学校の子なんです。

一輪車のように

平成７年度卒業生　杉浦　洪徳

江住小学校創立150周年、誠におめでとうございます。

私の息子も、今年から周参見小学校に通うようになりました。周参見小学校の一角にも江住小学校同様一輪車置場があり、「おっ、一輪車や」と懐かしくなり眺めていると、「江住小学校」と書いている一輪車を見つけました。

急に当時の運動会が見たくなり、父の撮っていた運動会のビデオを引っ張り出しました。校舎から校庭いっぱいに広がった万国旗や音楽が流れてきた時、懐かしさで胸がいっぱいになりました。30年若い私達小学生、保育園児、父兄、江住区の皆様が様々な競技で一生懸命頑張っています。

その中でも、私の記憶に鮮明に残っているのは一輪車パレードです。各々生徒が国旗を持ち、一輪車を漕ぐというだけでも大変なのに、風車、トンネル、大車輪、色々な技を先生のアナウンス、音楽に合わせて演技を披露していました。夕方５時近くまで練習をして、一輪車の乗りすぎで股ずれになったのを今でも覚えています。当時は「しんどい」「早く終わりたい」という気持ちしかなく、何でそこまで熱を入れていたのか分かりませんでした。しかし、パレードを終えると達成感があった事も覚えています。親になり、この年齢になって改めて見ると感動しますね。同時に、指導して頂いた先生方には感謝の気持ちしかないですね。

私の生家である潮音寺から開校して150年、沢山の卒業生を輩出した江住小学校の歴史にいよいよ幕が下ろされます。母校が閉校すると聞いて寂しく思うのは年齢を重ねたからでしょうか。

江住小学校が閉校しても、魂や思いは、周参見小学校で見た一輪車のように後世に引き継いでくれると思います。欲を言えば、いつか人口が増え子供たちが江住小学校へ通い、この一輪車が母校で活躍するのを待っています。

最後になりましたが、江住小学校の歴史を支えてこられた先生方、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。



平成１４年　運動会

江住小学校の思い出

平成10年度卒業生　森下　元喜

私が江住小学校にいた頃は全校児童数が約40人と少なく、特に私の学年は３人しかいなかった。しかし、生徒が少ないながらも友人たちと楽しく遊び、思い出がつまった小学校生活を送ることができた。その中でも特に記憶に残っている３つの思い出を語らせていただく。

１つ目は「朝のマラソン」だ。

毎朝、授業開始前に全校児童で校庭を素足で走った。夏は特に問題はなかったが、冬は地面が非常に冷たく、一歩踏み出すたびに足裏が痛かった記憶がある。ただ、あまりにも気温が低い日は靴を履いて走ることができた。また、玄関には大きな紀伊半島の絵が掲げられており、そこには生徒の名前が書かれた札が掛けられていた。走った距離に応じて、名札が紀伊半島を時計回りに動くシステムである。それを見るのが楽しみで、友達に勝つために一生懸命に走った。私は比較的足が速い方だが、おそらく６年間の「朝のマラソン」のおかげであろう。

２つ目は清水山である。

「朝夕あおぐ 清水山　すがたは高く かげ清く 動かぬ力 大空に 雨風しのぎ そびえ立つ」と毎日のように校歌で歌い、また、その雄大で美しい姿を校庭から眺めることもできたため、私と同様、小学校時代を振り返った際に思い出す卒業生も多いのではないだろうか。

実は小学校１年生の時の遠足で清水山に登ったことがある。小学校に入って初めての遠足だったのではないだろうか。急斜面で登るのが大変であった。山頂にはたしか神社があり、意外と開けていたと記憶している。他の山とは違い、江住のシンボルに登ることができたという特別感を味わうことができた。

翌年の遠足も清水山への登山が予定されていたが、ダニが発生しているとの理由から大鎌への遠足に変更された。そしてそれ以降、遠足で清水山に登ることはなかった。おそらくこれが最初で最後の清水山への登山になると思われる。清水山の登山は私の中では特別な思い出である。

３つ目は南弥右衛門翁の胸像である。

私はかくれんぼが大好きで、休み時間や放課後によくかくれんぼをした。校舎前には二宮金次郎像と南弥右衛門翁の胸像が並んで設置されており、それらは絶好の隠れ場所であった。しかし私は翁の像にあまり近づかなかった。その理由は、彼の眼差しが厳しく怖い印象を抱いたからである。その印象は小学校在学時に変わることはなかった。

しかし大きくなり、翁の功績や人柄について知り、彼の印象は180度変わった。和歌山県教育委員会発行の『わかやま何でも帳』において、和歌山県の偉人の１人として紹介されるほどで、“サンタマリアのレタス王”の功績は輝かしいものである。海外で働いた経験がある者として、彼のチャレンジ精神や故郷への思いには敬服する。私にとって、翁の像は帰省した際に訪れたい場所となっている。

最後に、母校が創立150周年の節目を迎えるにあたり、執筆の機会を頂いたことに感謝申し上げる。長い歴史とその中で数々の偉人を輩出してきた江住小学校の卒業生であるということは大変誇らしいことであり、今後もその名に恥じぬようにしたい。

タクシーのおじちゃんとの思い出

平成15年度卒業生　松本　麻緋（旧姓　辰己）



「お母さんは小学校、家から遠かった？」

今年５年生の娘にそう訊かれた時思わず笑ってしまいました。

タクシーで30分。それが私の通学でした。当時大鎌に住む小学生は私１人で毎朝タクシーが集会所まで迎えに来てくれるところから一日が始まりました。くねくね、でこぼこした道を登っては下って通った６年間。同じような景色でもあの角を曲がったら江住、あの林の隙間から海が見えることとか、きっと当時の私と運転をしてくれていたおじちゃんにしか分からない瞬間が沢山ありました。

おじちゃんと色んな話をしたり、道で栗を拾ったこともあります。学校が終わって一番に「おかえり」といってくれたのもタクシーのおじちゃんでした。雨でも寒い冬の日でもいつも「おはよう」「おかえり」と迎えてくれたおじちゃんが私はずっと変わらず大好きです。

今娘は全校生徒約500人の小学校へ通っていて学校の話を聞かせてくれますが、その全部が私の６年間とは違います。複式学級なんてもっての外で全校生徒が揃って給食を食べることもありません。運動会にくじ引きがあったり、夏休みリス当番があったり。

何より一番の違いは大きく広い海がないことです。夏になると江須ノ川に５・６時間目泳ぎに行ったその帰り砂のついたビーチサンダルをペタペタ鳴らして皆で歩いた光景は今も覚えています。あの頃当たり前のようにそこにあった海も生温い潮風も簡単に思い出せます。同級生がたった７人で、しかもそれでも大人数の学年だったと言うと本当に驚かれます。

今もこうして振り返っていると週２回ほどの全校朝礼で校歌のピアノ伴奏をしていた頃もありました。今でも指が憶えていて懐かしい気持ちになります。毎朝校庭を素足で走ったり、遠足はみんなで海を見ながらお弁当を食べました。田植えや稲刈り、夏は小学校でキャンプしたり、きっと今ではめずらしい事だらけの６年間でした。

そんな思い出の詰まった江住小学校が閉校になると聞きました。さみしい気持ちはもちろんありますが私の中の江住小学校はずっと変わらずにあります。当時の思い出を娘や息子に話している時間、私はあの頃に戻れているんだと思います。

江住小学校での思い出

平成20年度卒業生　楠堂　綾華



私は江住小学校を卒業して約14年が経とうとしています。そんな私も26歳。時の流れは早いものですね。江住小学校が創立150周年を迎えることは感慨深いものですが、併せて閉校すると聞き寂しい気持ちになりました。

江住小学校の自慢できるところといえば教室から太平洋が一望できるところ。海と山に囲まれた校舎、大きい運動場、体育館など本当に恵まれた環境で育ったなと実感しています。

小学生時代を思い返すと私は常に走っている陸上生活を送っていました。まず思い出すのは朝のマラソンです。登校してから体操服に着替えて10分間走。週１回は１キロのタイム走があったような気がします。授業前であっても関係なしに思い切り走っていました。マラソン大会では上位になれるよう必死になっていました。上級生になると上位５位までに入って駅伝チームの一員になれるよう頑張っていました。小学校５年生になると市町村駅伝大会に出場するメンバーに入れるよう朝夕、休日と毎日走る日々を送っていました。タイムが伸び悩み悔し泣きをすることも多々ありましたが、小学生から中学生までの５年間市町村駅伝メンバーの一員となれたことが今でも良い経験だったなと思います。

昼休みの全校生徒での皆遊び。人数が少なかったからこそ学年関係なく先輩方と遊べたり、交流ができたことが思い出でもあります。この歳になり身近な人や友達に地元のことを伝えると人数が少ないことやど田舎すぎることで驚かれることが多々ありますがこれはちょっとした自慢でもあります。ど田舎で育ったんです私！と胸を張れるんです。

１年生の時は和田先生、２年生の時は堅田先生、３年生の時は森先生、４年生の時は福島先生、５・６年生の時は小野先生と担任は毎年のように代わりましたが色んな先生の優しさ、指導のおかげでここまで成長することができ今の私がいるんだと思います。ありがとうございました。

最後に、江住小学校の卒業生として思い出を書かせてもらうことになり記憶は鮮明ではないのですが色々なことを懐かしく思い返すことができました。私達の思い出が詰まった校舎を有効に生かしていただけることを祈っています。

江住小学校ありがとうございました。

江住小学校での思い出

平成25年度卒業生　橋本　恭



私が江住小学校を卒業してから８年がたちますが、今回150周年記念誌に作文を載せていただくということで、当時のことを思い出していると、案外たくさんのことを覚えていて驚きました。

その中でも私が特に記憶に残っているのは登校した後すぐに行うマラソンです。千メートルから二千メートル程の距離を毎日グラウンドで走っていました。楽しかったというよりはむしろ辛かったという印象の方が強いですが、毎回先生がタイムを計ってくれており、終わりに自己新記録が出た人の名前を呼んでくれていたので、名前を呼んでもらいたくて必死に走っていました。また、運動会の時期になると、マラソンの代わりに種目の一輪車やダンスの練習が出来るので、心の中で少し喜んでいました。しかし12月頃になると、すさみ町内で行われる駅伝マラソン大会が近づいてくるため、普段よりも距離が増え、さらに雪が降るような寒さの中、半袖・ハーフパンツで走っていたので、とても大変でした。その後はいつも皆で手を震わせながら授業を受けていたのを覚えています。

そして、小学校生活の中でも特に記憶に残っている一番大きな出来事は、江住小学校と江住中学校の校舎が合併したことです。それまでは運動会などの行事の際にしか会わなかった中学生の人たちと毎日会うようになり、一緒に活動させてもらうことも増えました。

その活動の一つとして、私が小学校６年生の時、高速道路の出入り口の近くに出来る２つの橋の名前を江住小中学校で考えるというお話を頂いたことがありました。私はその時児童会に入っていたため、中学校の生徒会の人たちと一緒に、全校生徒が考えたものからいくつかに絞って候補を挙げるという作業をしました。候補を挙げる作業は、あまり他にはない名前を探すということが大変で、お昼の休憩時間をたくさん使ったことを覚えています。そしてその後さらに全校生徒にアンケートをとり、瑠璃橋と絆橋に決定しました。親柱にある銘板の字は中学生の人たちが書いてくれることに決まり、瑠璃橋の字を書くことになった姉が画数が多くてバランスも難しいと言ってとても苦労していたように思います。大変な作業は多かったですが、小中学校で協力しながらやり遂げたという達成感もありました。

しかし、最近、江住小学校が閉校になるというお話を聞きました。元々、少人数だったため、この先もずっと存続していくことは難しいとは思っていましたが、実際に閉校するとなるとやはり悲しく感じます。大好きだった場所がなくなってしまうという寂しさはありますが、６年間という短いようで長い様々な思い出の詰まった時間を江住小学校で過ごせたことを嬉しく思います。今は家族や友人と気軽に会うことが難しいですが、またいつか集まることができた時に江住小学校での出来事を忘れることのないように、たくさん思い出話をしようと思います。

江住小学校での思い出

令和２年度卒業生　吉田　侑月



私が小学校３年生ぐらいまで、中学生もいたので校内はすごくにぎやかだったのを覚えています。

そのころは外で遊ぶことが多くて、ジャングルジム・シーソー・ブランコでいっぱい遊んでいました。雨の日は中でトランプなどをしていたと思います。

中学校がなくなると体育館の中で遊ぶことが増えてきました。でも５年生になって、遊びも今までとは全然ちがう外での缶けりがはやりました。先生たちとも一緒に遊べて楽しかったです。

そして劇もするようになり、それも楽しかったです。劇は、七夕物語をけんゆう苑のおじいちゃんおばあちゃんに披露しました。これが、人前で披露する初めての劇でした。もっと劇をしたいなと思いました。その次が、「南弥右衛門物語」です。これは、私がすごく思い出に残っている劇です。新菜ちゃんが卒業する前の２月にビッグＵで劇を披露しました。最後に、校歌を歌っていると泣いてくれている人もいたのでやってよかったなと思いました。

その２月の終わりに、新型コロナ感染症の感染拡大のため突然学校が休みになりました。毎日行っていたときはいやになるときもあったけど、行けなくなると毎日が退屈になりました。

感染拡大がおさまらないまま、６年生になりました。学級数が減り、先生もだいぶ少なくなりました。周参見小学校にいってしまった子もいましたが、１年生が４人入ってきてくれて、全校で９人になりました。全国で休校が続く中、江住は登校日があり学校に行けたので、前と変わらず楽しかったです。野外学習ではどこにも行けないので、学校にみんなで泊まりました。教室で寝るのは少し怖かったです。最後のお別れ遠足で、ライオンのジェットコースターに初めて乗れたのもいい思い出です。劇もして遊んで勉強して、とっても楽しい１年間でした。

江住小学校が150周年で閉校になると聞いてとてもさびしい気持ちです。でも、思い出は消えないので楽しかったことを時々思い出してこれからもがんばりたいと思います。

子どもたちと共に

山本　ちづき（職員 昭和48年～59年）



昭和48年４月、２年生担任として紹介された入学式。以来11年間も江住小学校でお世話になろうとは・・・。

眼前に黒潮踊る太平洋。南向きの高台にそびえる３階建て鉄筋校舎。直進で100メートルコースがとれる当時県下有数の広い運動場。さんさんと降り注ぐ常春の陽光の下、子ども達は１年中半袖と半パン姿で駆け回っていた。大人の私でさえ、真冬に２階３階と上るに従って、上着を１枚ずつ脱いで入室するほど暖かさに恵まれた環境だった。

校舎裏にあった幼稚園（学校長が園長を兼務していた）から、４月当初親と離れることに泣き叫ぶ幼児達の悲愴な声が聞こえてきたが、やがて一月も経つといつの頃からか静かになり、歌声さえ聞こえるように変化していったことが思い出される。

里野の子ども達は一般乗客と共に熊野交通バスに乗降し、江住駅から歩いて運動場に上がって来た。後に統合した大鎌の子ども達はタクシーを利用しての通学となった。

花卉栽培が盛んだった里野の保護者達。日常は言うに及ばず、参観日や研究会等行事の度に四季折々の花を持たせてくれた。又、入学式や卒業式前日には、式場用にと丹精込めて育てた色取りどりの花々を惜し気もなく大きな花束にして車で届けてくれて有難かった。

昭和53年文部省（現文部科学省）指定全国道徳教育研究発表会当日、１年生の公開授業中のことである。突如吹いてきた風にあおられ、カーテンがロッカー上の花瓶を倒し、中の水が溢れ出てきた。想定外の現象に室内全体が「あっ」と息を飲む中、とりあえず花瓶を起こし、窓ガラスを閉めた。その時、１人の男子がすっと席を立ち、居並ぶ先生方の間をすり抜けると後ろに掛けていた雑巾を片手に床の水を拭きに来てくれた。一瞬の出来事ではあったが、彼に感謝しつつ悠然と構えて待ってくれていた子ども達と共に授業を再開するという一コマがあった。

後の協議会で「自分達の人数を遙かに超える大人達が注視する中、不測の事態にも怯まず、紅葉のような小さな手を挙げて次々発表してくれた子ども達に出会えただけでも今日の研究会に参加した甲斐があった。」「予想せぬ突風の中、さっと動いた男の子の行動の中にこそ我々が求める道徳的実践力を見ることができた。」と、咄嗟の出来事を研究会のテーマと関連付け、その価値を認めてくださった先生方の鋭い観察眼と深い洞察力、卓越した識見に思わず感服したことを覚えている。

毎朝元気よく「おはようございます！」と声を揃えて校舎内に入ってくる男子が２人。

１人は江住、もう１人は江須之川在住なのにいつも一緒に、例え周辺に人の姿が見えなくても、雨の日も風の日も２人のはつらつとした声は卒業する朝までずっと響き渡っていた。

やがて高学年ばかり担当するようになると子ども達の輝かしい躍進に驚嘆することが増えてきた。全国一茶まつり俳句大会入選、朝日新聞「子どもの詩」欄掲載、和歌山放送ラジオ番組「私の作文」放送、郡陸上競技大会優勝、絵画・社会・理科作品の県展入賞等。

圧巻は、自分達でデザインした表紙の多色刷りに挑戦し、各頁にも色刷りを加えて仕上げた文集が見事県コンクールで優良賞を獲得したことである。相互に切磋琢磨するうち学級全体がレベルアップし、いつの間にか仲間を気遣い、思いやる集団に成長していた。

「先生は何もしなくていいから。」との声かけだけで、卒業後の１日、楽しい親子遠足を企画してくれた頼もしいお母さん達がいた。

常時躍進する子ども達を起点に、物心両面にわたり支援してくださった保護者や地域の方々による熱い信頼や期待を得て、人として教師として大きく育てていただいた江住小。

150周年誠におめでとうございます！

そして長い間本当にありがとうございました。

江住小学校は金メダル

知野　光洋（職員 昭和61年～平成６年）



昭和61年、６年間慣れ親しんだ佐本小学校を離れ江住小学校に赴任し、平成５年度までの８年間お世話になりました。

その間、１年目は単式で、それ以降は複式学級で高学年を担任し、44名の子どもたちを送り出すことができました。

校長先生は、物静かでいつも穏やかに子どもたちを見守っていた中田美穂先生、朝一番に学校に来て子どもたちを迎えていた堺篤夫先生、にぎやかでいつも子どもたちに声がけしていた山本将文先生の御三方でした。

中でも堺先生とは、６年間ご一緒させて頂き様々な事を学びました。先生のことで今でもはっきり覚えていることがあります。

それは運動会当日、必ず上下真っ白な体操服を着て、子どもたちの出場種目になると本部の前に立って拍手を送っていたことです。

教頭先生は、歴史好きで広い視野で気遣いのできる上野宏先生、すさみ町初の女性管理職になった元気印の向井五美先生でした。

子どもたちはというと、どの子も怠ける事がない頑張り屋さんたちで、どの学習にしても運動にしても努力していた印象が強いです。

一番の思い出は、校歌の１番にある朝夕仰ぐ清水山への遠足です。１人で登るのでも汗びっしょりなのに、下級生の中にどうしても遅れてくる子がいて、６年生の体力のある２人と３人で、順番に背中を押したり腰に巻いたたすきを引っ張ったりして登り、頂上に着いたときには３人とも倒れ込みました。

その後理由と年度は覚えていませんが、遠足は太地に変更になりました。

そして奈良・京都・大阪への２泊３日の修学旅行。

奈良の若草山で手作りの弁当を食べ、シカと遊んで東大寺の大仏殿へ、京都では清水寺で音羽の滝で水を飲み、金閣寺、東映太秦映画村、夜の新京極で買い物を済ませいざ大阪へ。

大阪城、伊丹空港、エキスポランド、私自身が一番楽しんだ甲子園球場での阪神タイガース観戦。初めは静かに観ていたのに、いつの間にかメガホン片手に大声で応援していたのを覚えています。

当時江住小学校は、体力づくりに力を入れていて、毎朝始業前にマラソン、２限と３限の間に業間体育があり、リレー・一輪車・なわとび等年間を通して取り組みました。

一輪車は、運動会でマスゲームができるまでになり、児童一人ひとりが手作りの万国旗を掲げて入場し、アイドリングから片足走行、なわとびでの二重跳び、８の字走行、大車輪を成功させました。

この一輪車マスゲームは、すさみ町民運動会に招待され、わかもの広場で披露しました。

なわとびは、田辺市民なわとび大会に参加し、低学年は一重とびでの３分跳びに、中・高学年は二重跳びと三重跳びに挑戦しました。初めのころは歯が立ちませんでしたが、一輪車同様めきめき跳べるようになり、二重跳びで千回を超すまでになりました。

他にも町内ソフト・キックボール大会、町内駅伝大会があり好成績を収めました。

最後になりますが、忘れてはならないのが保護者の皆さんの協力です。全ての場面において縁の下の力持ちでいてくれました。

江住小学校の子どもたちみんな、保護者の皆さんは、私にとっての金メダルです。

心から、「ありがとうございました。」

江住小学校、150周年おめでとうございます。

150周年記念誌発刊と閉校に寄せて

村上　利博（職員　平成７年～16年）

すさみ町立江住小学校が、150周年を迎える節目の年、奇しくもその歴史に幕を下ろすことに際し、原稿依頼をいただき、私自身の小学校当時のことを思い出す良い機会を与えていただいたような気がしました。当時の思い出が走馬灯のように蘇ってきます。

私事ですが、江住小学校の卒業生として、また、教員を目指して母校での教育実習を経験し、そして、40代前半から後半にかけては、母校で教員として勤務もしました。

少子高齢化等の社会の変化であるとはいえ実際、出身校が統合して無くなってしまうことには、複雑で寂しさもひとしお身にしみます。

学び舎を少し振り返ってみたいと思います。

小学校の低学年の頃は、木造の校舎が高台にあるため、小さいながらも手前の急な石段で一休みして、「はあ、はあ、」しながら教室へ向かったことが記憶に残っています。

校舎の正面からは、いつ見ても変化のある飽きることのない太平洋の海原。正面玄関周辺には、どっしりと腰を据えた、ソテツ、タイサンボク、ビャクシンが植わっていました。背後には校歌に登場している清水山。

私にとって江住小学校での６年間は、この海や山が癒やしの場であり、貴重な自然体験の場でもありました。

夏には、海や川での水泳。秋には、清水山への遠足。海に入り貝を捕ったり、魚を釣ったり、山では、木の実を採ったり、昆虫を捕まえたり等々、どうしたら上手くいくか、学年の上下に関係なく、仲良く自然の中で学び体験したものでした。時間がいくらあっても足りず、夕暮れを恨めしく思ったのが、小学校の時期でした。

このような経験の場が、江住小学校のフィールドであった過去が、今でも嬉しく懐かしく思います。

また、教師を志して教育実習でもお世話になりました。約１ヶ月の実習で、教師として現場での基礎基本の事項（言葉遣い･挨拶･児童への接し方等々）を実践豊かな先生たちに教え込まれました。

当時、特に印象深かったことは、学校の実践で「お・あ・し・す」運動(挨拶運動)を行っていて、その流れだと思いますが、県の道徳教育指定研究校として研究発表会がありました。

私は、６年生のベテラン男性教諭の公開授業を参観しました。

何も分からない学生の自分でも、ねらい･発問･板書・児童の主体性、授業展開等全てが、目から鱗でした。今でも教訓にしているのが、板書の字の丁寧さと美しさです。非常に勉強になったことを覚えています。

先生方は常に機会があれば、日々積み上げられた数々の確かな教育実践を広く発信されていました。

江住小学校の実績が多くの皆様から惜しまれつつ、輝かしい学史の終止符となることは、誠に寂しい限りです。

しかし、校区の皆様方が脈々と築いてこられた校風と伝統は、卒業生をはじめ、保護者や地域の方々の誇りとして、心に深く刻まれるとともに、統合する周参見小学校に受け継がれるものと確信しています。

最後に、150周年記念誌発刊並びに閉校に当たりお世話いただきましたすべての皆様のご労苦に対し、深く敬意を表しまして、寄稿といたします。

思い出に感謝！

田中　徹（職員　校長　平成15年～18年）

すさみ町立江住小学校創立150周年 誠におめでとうございます。

私は平成15年４月１日付けで串本町立田並小学校長より江住小学校長として着任し、３年間お世話になりました。

教師生活で初めてすさみ町での勤務であり、かつて私の父親が校長を務めさせていただきお世話になった学校であり、また地域でもあるので、大変緊張したことを鮮明に覚えています。

着任して驚いたことは、その教育環境の豊かさです。直線100mはとれる広大な運動場、クスノキをはじめとする森のような大木の群れ、教育に情熱を燃やした城桂谷の記念碑、移民の父と慕われ尊敬された南弥右衛門の胸像、教育振興に私財を投入された藤本政太郎、五郎兄弟の碑、教育向上に資する木村奨学会、風通しの良い広い体育館、新しい25mプール、南向きの３階の鉄筋校舎。眼下に広がる雄大な枯木灘の景観などです。

明治５年の学制発布からわずか１年後の明治６年、江住潮音寺に開校して以来、地域の先人たちが営々と築き上げてきた教育環境、それを引き継いだ保護者・地域の方々、町行政の学校教育への期待の大きさなど、学校を取り巻く歴史がわかるにつれ、校長として責任の重さを感じずにはおれませんでした。

当時の職員体制は、校長、教頭、教諭（３～４名）、養護教諭、用務員でした。教頭をはじめ熱心で協力的な先生方に助けられた日々でした。着任した年の全校児童数は31名が最高で、翌年度からは30名を切りました。その後も減少の一途をたどりました。

「よく遊び、よく学ぶ」をモットーに、日々の学習、修学旅行、参観日、研究発表会、地域連合運動会、地域交流会、町内・郡陸上記録会、校内マラソン大会、町内駅伝大会など、先生方の指導を素直に聞き、粘り強く取り組む子どもたちでした。

中でも、朝の自主マラソン。始業前に裸足で運動場に全員集合し、ランニングが始まるのです。私の時はすでに伝統化しており、1度も「早く集まれ」と声かけした覚えはありません。この取組が土台となり、陸上記録会やマラソン大会等で好成績を残したのです。

江住地区連合運動会も蘇ります。エネルギー溢れる子どもたちを中心に、周辺地域の方々が参加してくれ大変盛り上がりました。園児のかわいい演技、全校児童の一輪車演技、キッズソーラン、３色リレー、地区対抗リレー、福引き抽選会も人気でしたね。

また、地域の祭りも忘れられません。丸いお月さまが東の空にゆっくりと昇ります。夕暮れ迫る学校に公民館からきれいな笛の音が流れてきます。子どもたちが祭りの練習を重ねているのです。

区長さんから祭りの招待を受け、職員とともに参加させてもらいました。すでに会場（公民館）には家中が留守になったかと思うほど大勢の方々が集い、ご馳走を前ににぎやかに談笑しています。顔に化粧をした法被姿の若者たちが、私にお酒を盛んに勧めてくれます。

酔いがまわりいい気分になった頃です。突然、若者数名に取り押さえられました。何が起きたか全くわかりません。たちまち顔中に絵具を塗りたくられたのです。(仲間として認められた証でしょうか？)

その後、私の化粧はどうなったか忘れましたが、子供神輿と一緒に地域を千鳥足で練り歩いたことも楽しい思い出です。

「人は環境で育つ」とよく言われますが、おそらく当地方有数の教育環境を誇る江住小学校で学び、この地域で育つ子どもたちは幸せだと実感させられた3年間でした。この原稿の最中、教育長さんから「江住小学校の閉校が今年度末に決定した。」との話がありました。

創立150周年をもって、江住小学校の歴史を閉じるのも時代の流れかと想うと胸にせまるものがあります。最後に、この教育環境を最大限に活かした跡地の活用を町当局に強くお願いして筆をおかせていただきます。お世話になり誠に有難うございました。

私の宝物は、母校江住小学校

福島　恵美（職員　平成18年～28年）



「恵美ちゃん、学校の先生になったらいいのに。」、「友達、仲間って言うのは・・。」、「自分の考えをしっかり伝えよう。」と、担任してくださった先生方。

江住小学校での素敵な先生方との出会いが、私を教職の道へと歩ませてくれました。

小学生時代は、外で元気一杯友達と遊んだのが一番の思い出です。鉄棒、ビー玉、ゴム飛び、鬼ごっこ。運動場にビー玉用の穴を掘って先生に叱られたのも思い出の一つです。放課後は運動場や公民館そばの公園で、学年関係なく、男女入り交じって遊んでいたように思います。その分、擦り傷や青あざだらけでした。

又、校舎建築や里野小学校との統合も心に残っています。

３年生までは木造の校舎で、４年生からは真新しい鉄筋校舎で学習しました。２階のベランダからみんなで四季折々の海をながめることもありました。

４年生の時に里野小学校と統合になり、同級生が３名増え、嬉しかったのを覚えています。今思えば、どちらも大きな出来事だったように思いますが、その分、「友達とは、仲間とは」を考える良い機会になったのだと思います。

卒業から30年後の平成18年に、教諭として母校江住小学校に赴任出来た時は、夢のようでした。着任式の時に校歌を歌って自己紹介をしたのを今でも覚えています。江住小学校での10年間は、やる気一杯の子ども達に恵まれ、充実した毎日でした。子ども達には、「自分大好き、友達大好き、学校大好き、地域大好きな子に育って欲しい」と願い、たくさんの地域学習に取組みました。米作り、地域発表会（歌や作文発表や地域の方との意見交流）、けんゆう苑訪問、熊野古道への遠足、郷土の偉人調べ、熊野学校、大鎌での宿泊キャンプ、祭り、もちつき大会等。どの学習も、子ども達が企画・準備・実施・振り返りを行う取組みでした。子ども達のやる気がどんどん増していくのを肌で感じ、子ども達の素晴らしさを再認識する毎日でした。また、地域学習には、地域の方々のご協力が不可欠で、どの学習においても一生懸命応援してくださいました。「学校は地域に支えられている」ということを実感した10年間でした。

校歌の学習をした折には、「小規模校であっても小さくおさまらず、やれば出来るんだという自信を持ち、他人に対する優しさや思いやりを身につけて欲しい」という願いが込められているという事を知る機会となりました。積極的でたくましく堂々とした若者に育った江住小学校の子ども達は正に、校歌の一節「世にたぐいなき人となれ」を実践していると感じています。

「陽気、やる気、根気、元気，勇気、時（時間）、そして感謝の気持ちを大切に」を合い言葉に子ども達と共に過ごした10年間は今でも私の宝物です。そして、母校江住小学校に勤務できたことは私の誇りでもあります。

ありがとう。江住小学校。

ありがとう　江住小学校

嶋田　正好（職員　平成23年～31年）



着任した年の始業式の日、４年生教室に斧君、山形君、阪本さん、橋本さんの４人がキラキラした目で可愛らしく座っていたのを昨日のことのように思い出します。

それから８年間、江住小学校に勤務しました。私が勤務をはじめた年は、ちょうど小学校の校舎に中学校が引っ越してきて、同じ校舎での授業がはじまった年でした。小学生は１階と２階、中学生は３階で授業をしていましたが、登下校や階段で中学生と言葉を交わす機会も多く、小学校と中学校で合同で行える行事は一緒にしたり、月に１回は合同の職員会議を行うなど、小学校と中学校の枠を超えて交流が出来たことは、貴重な経験となりました。

高台にある校舎の窓から見える雄大な太平洋。見渡す限りの水平線。授業中であっても思わず見とれてしまう素晴らしい景色です。江住小学校で長く勤務され、卒業生でもある福島恵美先生が教えておられた歌「学校坂道」の歌詞にある「この坂道登ったら　僕の学校が見えます　ジャングルジムに登れば海が　真っ青に見えます」まるで江住小学校のために作られたような歌を思い出します。

春の遠足は、毎年「長井坂」「里野」「江須崎」を交代で回りました。江住地区のことをほとんど知らなかった私にとってはどの場所も新鮮で、思い出深い場所となりました。特に長井坂は小倉さんと一緒に現地を歩き、歴史について色々と教えて頂きました。

秋には「江住」「江須之川」「里野」の３地区を回って歌や作文を発表しました。ミニ集会では、地域の皆さんに昔の小学校やそれぞれの地区の様子を教えて頂きました。

一番印象に残っているのは朝マラソンです。毎朝1000mのタイムを計測します。どの子も自分のベストタイムを更新すべく、全力で走ります。その後は50mダッシュ。私も一緒になって走りました。自己ベストを出した時の子どもたちの笑顔を見るのがとても楽しみでした。この毎日の積み重ねで、毎年行われる町内駅伝大会では小学生の部で６年連続優勝など輝かしい成績を残していました。和歌山県ジュニア駅伝のすさみ町チームには、毎年江住の小学生が参加していました。

夕方からの江住ジュニア陸上クラブの練習にも、コーチとして参加しました。小学生も中学生も昼の勉強やクラブ活動で疲れている中、夜間照明に照らされたグラウンドを励まし合いながら駆け回りました。

江住小学校を去って５年になろうとしています。今でも担任をした子どもたち、お世話になった地域の皆様、一緒に勤務した先生方の顔が浮かんできます。自分にとって、本当に充実した、かけがえのない８年間でした。

先日、山口校長先生から、今年度で閉校になるというお話を伺いました。これも時代の流れとして受け入れざるを得ないことなのでしょうが、残念でなりません。

しかし、江住小学校はその長い歴史に関わった全員の心の中に、ずっと素晴らしい思い出と共に生き続けるだろうと思います。

江住小学校、ありがとう。

卒業写真及び卒業生名簿



昭和50年度卒業生

岩崎　広志	古森　　慎	芝本　弘之	城　　文仁	竹田　一也
藤本　英文	水谷　　学	森下　勝司	山形　俊二	山田　　実
上山　美紀	太田　　愛	岡　　香	甲把　徳子	塩谷　和香
城　　由美	高田　史子	藤内　光美	三木　由紀	山﨑貴恵子



昭和51年度卒業生

石垣　敏郎	太田　　昭	芝本　　晋	城　　直	城　　嘉宏
谷口　　透	藤本　昌伸	前田　高宏	水上　　健	山本　栄司
大藪　　節	片倉　みき	甲把　京子	田中かおり	田中　美沙
玉置結季子	山田ゆかり			



昭和52年度卒業生

岡田　光弘	斧　　高志	勝山　克彦	木村　淳志	城　　孝明
日野岡隆之	水上　欣也	冨永　　聡	奥村八重美	阪本　恵子
永山美紀子	西山まゆみ	野澤　康子	畑垣多佳子	鷲谷　京美



昭和53年度卒業生

石垣　育人	梅田　繁典	片倉　勉	阪上　正寿	竹田　伸之
田中　浩史	原　光広	廣畑　孝二	山崎　茂	坂下　美香
城　隆子	藤内　正美	濵路　珠実	法貞　輝子	松下　厚子
南　弥恵子	細谷千恵子			



昭和54年度卒業生

今出　泰平	斧　　潔	木村　敏巳	阪本　敏郎	田上　耕作
玉置　貴則	仲　　哲生	前田　英宏	政ヶ谷浩司	山崎　真吾
岡　千登勢	小倉さな美	片倉ちせ子	川口　好実	楠堂美智子
古森　裕子	坂下　　慶	芝本　亮子	豊川　美和	水谷　美香
山形　文子				



昭和55年度卒業生

上霞　輝雄	斧　　功	甲把　陽一	瀧本　賢児	藤内　英俊
中瀬　勝之	濵本　詔康	藤本　明宏	片倉　千恵	竹田　瑞代
永山亜紀子	細谷　尚子	宮岡　郁世	山本　美紀	向井ひとみ



昭和56年度卒業生

今出　正徳	上霞　保博	斧　　進	勝山　沢哉	楠堂　稔久
坂下　　明	竹本　博樹	藤内　徳幸	南　　明芳	向井　太志
山崎　勝也	奥村　育美	片倉　由美	木村　晃子	木村　千保
芝本紀和子	西山　恵美	濵路　道子	前田　昌子	宮岡　裕美
山本　由紀				



昭和57年度卒業生

鵜飼　哲也	岡　弘貴	栗栖　清	阪上　寿郎	澤邊　真一
下村　直美	城　千景	千種つや子	中瀬　理香	西山　由佳
藤本恵美子	政ヶ谷幸代	松下　則子	吉田　結美	藤谷　智華



昭和58年度卒業生

鵜飼　晋也	日下　晃伸	藤内　博一	中川　　敦	細谷　　昇
向井　雅広	片倉真知子	坂下かおり	橋本由美子	舟井　理香
丸島　理恵				



昭和59年度卒業生

勝山　雅基	加藤　亘	澤邊　篤	芝本　禎	千種　和寛
藤本　達矢	向井　方俊	山本　慶	井上　成子	木下早枝子
木村　京子	栗栖　和江	下村　千帆	竹本　美智	西山　美紀
藤本ゆかり	藤谷　恵			



昭和60年度卒業生

斧　　稔　　谷　　保輝　　平松　善仁　　山田　哲也　　楠堂さゆり
瀧本　葉子　　橋本　弘子　　舟井かおり　　山口　和美



昭和61年度卒業生

鵜飼　敏也　　木下　和俊　　小森　愛子　　澤邊　友香　　田中　路子
藤内　尚子　　丸島有希子　　向井　一代



昭和62年度卒業生

浦　智也　　斧　豊　　下村　直行　　津村　宣好　　藤本　明仁
加藤　貴代　　小森三由紀　　瀧本　福代　　谷口由希子　　平松　勝仁



昭和63年度卒業生

斧　拓也　　南　貴夫　　上霞　博美　　小森　一葉　　芝本　晃代
向井　恵美



平成元年度卒業生

岡　真由美　　斧　めぐ美　　日下恵美子



平成２年度卒業生

斧　　治　　谷口　　豪　　橋本　善文　　南　　繁幸　　南　　信彰



平成３年度卒業生

鵜飼　恭也　　平松　　智　　丸島　博美



平成４年度卒業生

大竹　正純　　津路　宜宏　　前田有希茂　　南　亜月子　　南　　義昭



平成５年度卒業生

平　　智之　　前田　卓也　　太田佐知子　　酒井　佳代



平成６年度卒業生

大竹　伸明　　沖　　将勝　　奥上　大佑　　橋爪　康人　　太田　裕子
小久保早穂　　三木　志穂



平成７年度卒業生

芝本　　智　　杉浦　洪徳　　野澤　祐哉　　沖　　香里　　酒井　友香
田中　仁美　　前田亜矢子　　前田　伊世



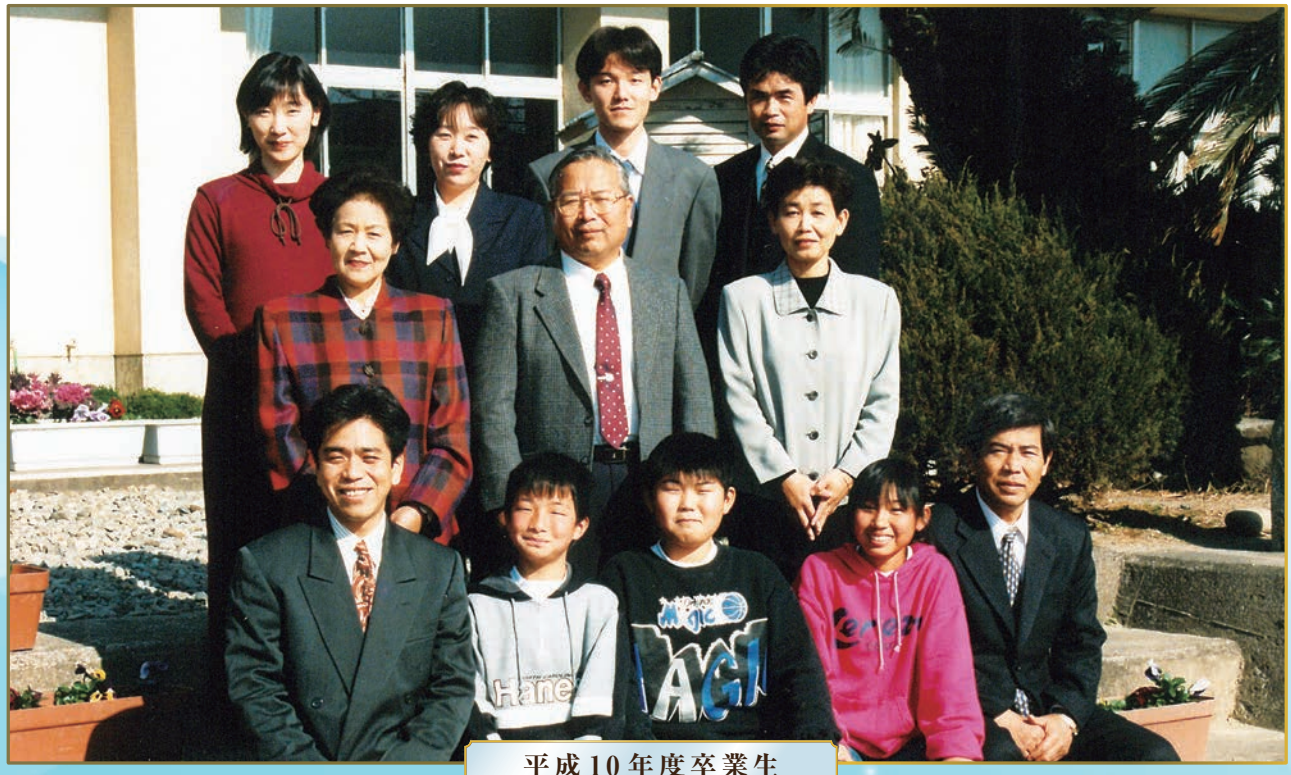
平成８年度卒業生

太田　敬久　　尾嵜　大隼　　片倉　準也　　小久保晴香　　津村　健斗
津路　佳寿　　橋爪　雄二　　橋本　篤志



平成９年度卒業生

大竹　正俊　　大竹　陽平　　小久保理央　　谷口　裕亮　　野澤　　彩
橋本真衣子　　三木　竜哉　　森　なぎさ　　山形　勇真



平成１０年度卒業生

尾嵜　悠哉　　津村　若那　　森下　元喜



平成11年度卒業生

國正　靖　　谷口　佳奈　　津路　尚孝　　橋爪　真美　　濵地　美穂
三木　宗樹　　森下友紀子



平成12年度卒業生

大竹可央里　　片倉　美里　　杉浦　栄信　　竹田　壮志　　西尾　洋輝



平成13年度卒業生

國正　茜　　下村　悠　　坪井亜弥架　　濵地　理恵　　山形　勇人



平成14年度卒業生

大竹理恵子　　岡　亜由美　　雑賀　祐子　　玉置　涼　　中村　恵
森下真弓子



平成15年度卒業生

杉木　瑛司　　竹田　昂平　　辰己　麻緋　　田中　諒　　西山　真由
濵地健太郎　　山形　有希



平成16年度卒業生

尾嵜　諾文　　片倉　沙羅　　國正　翔　　田中　遥子　　中村　唯



平成17年度卒業生

杉木　希更　　鈴木　佳奈　　玉置　　和　　西山　若菜　　森下　瀧詞



平成18年度卒業生

小松原千明　　城　　雄斗　　坪井　真優　　西尾　美輝　　山本　香織
斧　　千恵



平成19年度卒業生

川上　彩香　　國正　郁弥　　坂下　純平



平成20年度卒業生

岡　春輝　　斧　涼　　楠堂　綾華　　鈴木　和樹　　永野　未訓
林　有香　　松下　基海



平成21年度卒業生

今村　翼　　山﨑　大地　　山本　祐哉



平成22年度卒業生

岡　京加　　楠堂　隆元　　城　葉月　　橋本　尭巳　　林　桂也
南　悠伍



平成23年度卒業生

岡　　幸矢　　山﨑　一生



平成24年度卒業生

今村　知良　　楠堂　尚紀　　南　　彩奈



平成25年度卒業生

斧　　雅也　　阪本　満里　　橋本　　恭　　山形　誉雄



平成26年度卒業生

厚海　　純



平成27年度卒業生

佐々木　健　　南　　大伍



平成28年度卒業生

稲葉　央介　　阪本　瑠那　　下村　海月　　宮田　渓志



平成29年度卒業生

稲葉　暖七



平成30年度卒業生

佐々木　桜　　下村　凪輝　　宮田　怜奈



令和元年度卒業生

三木　新菜



令和２年度卒業生

前田　真優　　吉田　侑月

歴代校長名簿

役職	名前	転入	転出	
校　長	古田　耕次	S48年　4月　1日	S51年　4月　1日	
校　長	追矢儀太郎	S51年　4月　1日	S55年　4月　1日	
校　長	宮内　益穂	S55年　4月　1日	S59年　3月31日	
校　長	中田　美穂	S59年　4月　1日	S62年　3月31日	
校　長	堺　篤夫	S62年　4月　1日	H 5年　3月31日	
校　長	山本　將文	H 5年　4月　1日	H 8年　3月31日	
校　長	橋本　亨	H 8年　4月　1日	H12年　4月　1日	
校　長	小川　眞次	H12年　4月　1日	H15年　3月31日	
校　長	田中　徹	H15年　4月　1日	H18年　3月31日	
校　長	澤田　兼行	H18年　4月　1日	H20年　3月31日	
校　長	峯地　拓	H20年　4月　1日	H22年　3月31日	
校　長	出口　孝	H22年　4月　1日	H24年　3月31日	(H23年度～江住中校長兼務)
校　長	船井　洋二	H24年　4月　1日	H26年　3月31日	(江住中校長兼務)
校　長	小出　貴史	H26年　4月　1日	H31年　3月31日	(～H28年度江住中校長兼務)
校　長	山口　仁美	H31年　4月　1日	R 5年　3月31日	

歴代教職員名簿

役職	名前	転入	転出
教　頭	塩谷　福夫	S45年　4月　1日	S52年　4月　1日
教　諭	井口　栄市	S46年　4月　1日	S54年10月22日
教　諭	玉田　博恵	S44年　4月　1日	S51年　4月　1日
教　諭	田城　澄子	S45年　4月　1日	S52年　4月　1日
教　諭	田中　妙子	S47年　4月　1日	S58年　3月31日
教　諭	木村　甫	S48年　4月　1日	S48年　9月　1日
教　諭	山本ちづき	S48年　4月　1日	S59年　3月31日
教　諭	岡嵜　恒機	S49年　4月　1日	S51年　4月　1日
用　務　員	上山　圭子	S49年　1月14日	S63年　3月31日
		H 7年　4月　1日	H12年　3月31日
講　師	中山　篤	S48年　9月　1日	S52年　4月　1日
養護教諭	小森(沖)三津子	S51年　4月　1日	S54年　4月　1日
教　頭	稲生　淳弘	S52年　4月　1日	S56年　4月　1日
教　諭	塩谷ツギ子	S52年　4月　1日	S58年　3月31日
教　諭	岡山　末男	S52年　4月　1日	S54年　4月　1日
教　諭	畑山　和男	S53年　4月　1日	S59年　3月31日
教　諭	堀本　萬治	S51年　4月　1日	S54年　4月　1日
教　諭	平野　嘉秋	S54年　4月　1日	S57年　4月　1日

役職	名前	転入	転出
教　　諭	撫養　明美	S54年　4月　1日	S56年　4月　1日
養護教諭	撫養(那須)恵子	S54年　4月　1日	S59年　8月21日
教　　諭	七尾　文代	S55年　4月　1日	S60年　3月31日
事務職員	中村美津代	S55年　4月　1日	S56年　4月　1日
教　　頭	久山　一彦	S56年　4月　1日	S58年　3月31日
事務職員	岩城　伸一	S56年　4月　1日	S63年　3月31日
教　　諭	堀川　克治	S57年　4月　1日	S58年　4月　1日
養護助教諭	田中　美子	S57年　9月　1日	S58年　4月　1日
教　　頭	吉村昭比古	S58年　4月　1日	S60年　3月31日
教　　諭	山本　　節	S58年　4月　1日	S61年　3月31日
教　　諭	笠原　利紀	S58年　4月　1日	S61年　3月31日
教　　諭	小林　三枝	S59年　4月　1日	S62年　3月31日
養護助教諭	峰　　尚子	S59年　7月11日	S60年　3月31日
教　　頭	上野　　宏	S60年　4月　1日	H　元年　3月31日
養護教諭	楠本(林)愛子	S60年　4月　1日	H　2年　3月31日
教　　諭	知野　光洋	S61年　4月　1日	H　6年　3月31日
教　　諭	多田利恵子	S61年　4月　1日	S62年　3月31日
教諭・教頭	向井　五美	S62年　4月　1日	H　7年　3月31日
事務職員	水谷　　守	S63年　4月　1日	H　7年　3月31日
用　務　員	太田　幸代	S63年　4月　1日	H　7年　4月　1日
講　　師	濵岡　康代	H　元年　4月　1日	H　元年　9月12日
講　　師	明石　尚美	H　元年　9月13日	H　2年　3月31日
教　　諭	石本(峰地)美春	H　元年　4月　1日	H　9年　4月　1日
講　　師	加森　志保	H　2年　4月　1日	H　5年　3月31日
養護助教諭	中橋　由佳	H　2年　4月　1日	H　7年　3月31日
教　　諭	出口　智子	H　3年　4月　1日	H13年　4月　1日
教　　諭	土井　安博	H　5年　4月　1日	H12年　4月　1日
非常勤講師	佐々木千佳	H　5年　4月　1日	H　6年　3月31日
教　　頭	村上　利博	H　7年　4月　1日	H16年　4月　1日
養護助教諭	古川　裕子	H　7年　4月　1日	H　9年　3月31日
講　　師	新谷　憲史	H　7年　4月　1日	H　8年　3月31日
事務職員	城　多賀子	H　7年　4月　1日	H　8年　3月31日
教　　諭	加藤　元昭	H　7年　4月　1日	H13年　3月31日
事務職員	浜野　剛志	H　8年　4月　1日	H　9年　3月31日
講　　師	山崎　佳美	H　8年　4月　1日	H　8年　5月24日
養護助教諭	谷本　浩子	H　9年　4月　1日	H10年　3月26日
事務職員	髙垣　貴則	H　9年　4月　1日	H12年　4月　1日
教　　諭	三嶋(戸山)真岐	H10年　4月　1日	H13年　4月　1日

役職	名前	転入	転出
養護教諭	辻本　聖子	H10年　4月　1日	H16年　4月　1日
講　師	林　珠代	H11年　2月12日	H11年　3月31日
講　師	齋藤　良子	H11年　4月　1日	H12年　3月31日
教　諭	岩城　英伸	H12年　4月　1日	H15年　4月　1日
事務職員	江﨑　明子	H12年　4月　1日	H18年　4月　1日
		H27年　4月　1日	R　2年　3月31日
教　諭	榊　洋治	H13年　4月　1日	H17年　4月　1日
教　諭	稲葉　和子	H13年　4月　1日	H15年　4月　1日
		H26年　4月　1日	R　2年　3月31日
講　師	山本真理子	H13年　4月　1日	H14年　3月31日
用　務　員	尾嵜　美穂	H13年　4月　1日	H23年　3月31日
養護助教諭	川口　怜子	H16年　4月　1日	H17年　3月31日
教　諭	小野　藤雄	H15年　4月　1日	H22年　4月　1日
教　諭	和田　靖子	H15年　4月　1日	H18年　4月　1日
教　諭	森　敦子	H17年　4月　1日	H21年　4月　1日
養護教諭	硲　真寿世	H17年　4月　1日	H21年　4月　1日
教　頭	硲　雅子	H16年　4月　1日	H24年　3月31日
教　諭	堅田　康代	H16年　4月　1日	H19年　4月　1日
養護助教諭	鈴木　真美	H18年　2月　3日	H21年　3月31日
教　諭	福島　恵美	H18年　4月　1日	H28年　3月31日
事務職員	河内　善子	H18年　4月　1日	H20年　4月　1日
事務職員	堅田　忠臣	H20年　4月　1日	H24年　3月31日
教　諭	吾妻(丸山)和世	H21年　4月　1日	H25年　3月31日
教　諭	古田　理恵	H22年　4月　1日	H23年　3月31日
教　諭	嶋田　正好	H23年　4月　1日	H31年　3月31日
用　務　員	滝本　奈々	H23年　4月　1日	H26年　3月31日
教　頭	仁木　順子	H24年　4月　1日	H26年　4月　1日
事務職員	杉本　大介	H24年　4月　1日	H27年　4月　1日
講　師	上田　陽子	H25年　4月　1日	H26年　3月28日
教　頭	沖　洋	H26年　4月　1日	H27年　4月　1日
講　師	竹田　裕紀	H26年　4月　1日	H27年　3月27日
用　務　員	楠堂　順子	H26年　5月　1日	R　5年　3月31日
教　頭	村上　浩	H27年　4月　1日	R　2年　3月31日
講　師	森田由利子	H27年　4月　1日	H29年　3月31日
養護教諭	前川　由貴	H28年　4月　1日	R　2年　3月31日
講　師	宮山　俊輔	H29年　4月　1日	H30年　3月31日
教　諭	武藤　久子	H30年　4月　1日	R　5年　3月31日
教　諭	上野　聡太	H31年　4月　1日	R　3年　3月31日

ありがとう
江住小学校



ありがとう 江住小学校

江住小学校での思い出　　３年　山形　光

私が江住小学校に入学したときは４人で入学しました。１年生で楽しかったことは、お楽しみ会です。みんなでポップコーンを作ったりホットケーキをやいて食べたり、くつとばしやかんけり、おにごっこ、けいどろをしました。もう一つは、おわかれ遠足でアドベンチャーワールドに行ったことです。みんなでおべん当を食べたり、遊具で遊んだりイルカをさわったりして楽しかったです。

２年生から１人になりました。２年生で楽しかったことは、野外学習で友だちと泳いだことです。すなの川で泳いだり、スライムを作ったりしました。ことのたきを見に行って、しずくのたきでおべん当を食べました。もう一つは校外学習で田上先生と新じょう公園で遊んだことです。紀南図書館の見学をしたり、水族館に行ったり、新じょう公園でおべん当を食べて遊びました。

３年生の２学期に周参見小学校でさんかん日がありました。その後ママたちがお話を聞いている間、かほちゃんとなおくんとすごしました。えい語のじゅ業をいっしょに受けたり、グリコをしたり、さんぽをしたりしました。すごく楽しかったです。

江住小学校での３年間は、とても楽しかったです。周参見小学校でもがんばりたいと思います。



１年生



２年生



３年生



１年生



２年生

武藤　久子（３年生担任　平成30年～）

100周年のときに父がお世話になったこの江住小学校で、150周年に娘である私がお世話になっていることに不思議な縁を感じています。江住小学校での５年間は、とても楽しい５年間でした。雄大な太平洋が窓の外に広がる音楽室。子どもたちの歌声がとっても素晴らしく、校長先生にすすめられるままに郡市音楽会に出た１年目。14人の歌声が紀南文化会館に響きました。他の学校の先生方からもお褒めの言葉をたくさん頂き大変嬉しかったです。連合運動会も初めての経験でした。地区対抗種目からジュースを一気飲みする障害物競走、笑いの絶えない借り物競走、最後は豪華景品が当たるくじびきまで。仕事を忘れて楽しんでしまいました。

七夕物語をけんゆう苑で発表したことを皮切りに、地域学習発表会で劇に取り組むようになった２年目。文化祭や和歌山県教育委員会のフォーラムでの発表など大勢の人の前でも堂々と演技する子どもたちの力に驚きました。

コロナウィルス感染症拡大で色々制限の多かった３年目。そんな中でもできることは何でもやって楽しもうとする子どもたちの姿が印象的でした。野外学習ではどこにも行けないので、学校で子どもたちと一緒に枕を並べて寝ました。コロナ禍だったからこそできた経験となりました。児童１名となった４年目。今、目の前にいる子どもたち一人ひとりに合った教育がいかに大切かを実感しました。また学校は多くの人に支えられていることを再確認しました。創立150周年をむかえた５年目。江住小学校の歴史を知り驚かされることばかりでした。こんなに多くの偉人が出ている地域はそんなにないと思います。そして、その多くの人が地域の教育に対して惜しみない援助や貢献をしてくださっており、私がこの５年間見てきた子どもたちの土台にはそんな江住の風土があるんだろうなと感じています。やるべきことには真面目に一生懸命取り組み、楽しむときは思いっきり楽しむ。そんな素直な子どもたちのおかげで、学校の良さや楽しさ、面白さそしてかけがえのなさを存分に味わうことができた５年間でした。

江住小学校は、150年で閉校となります。この150年の中には、私の５年間のように江住小学校に通った一人ひとりの１年１年がぎゅうっと詰まっています。閉校になってもそれぞれの江住小学校の思い出は消えません。またいつかこの150年誌を見ながら、江住小学校の思い出を語り合いたいです。その日を楽しみにこれからもがんばっていきます。



楠堂　順子（用務員　平成26年～）

９年間この江住小学校で勤務出来た事が私にとって貴重な経験になりました。

閉校と決まってさみしい思いですが、子どもたちや校長先生をはじめ、たくさんの先生方と出会えた事は、いい思い出になりました。

今までお世話になり、ありがとうございました。

宮本　末子（学校図書館司書　令和元年～）



学校司書として江住小学校にお世話になって３年余り。私は週１回の勤務ですが、こちらへ来るのが毎週楽しみでした。江住の地の魅力が学校に満ちていたのでしょうね。

より良い図書室をめざして環境を整えたり、利用を進める方法について知恵をしぼったりして仕事をさせてもらいました。これも江住小の子どもたちや先生方のおかげだと感謝しています。

すてきな時間をありがとうございました。

ジョセフ・ベニントン　Joseph Bennington（ＡＬＴ　令和４年９月～）



江住小学校ですごした時間は短かったのですが、この学校で出会った先生方や光ちゃんと過ごした楽しい時間に感謝しています。

この学校はとても素晴らしく、ここでＡＬＴとして働くことができて光栄です。



１年生　運動会



２年生　劇「お待ちの坂」



２年生



３年生　みんなの教室



３年生　ALTキリル先生と



３年生　野外学習（大鎌の滝）

百五十周年・閉校記念事業の概要

(1)『創立百五十周年記念誌』の編集

令和４年６月江住小学校150周年記念事業実行委員会として組織したが、９月議会で閉校が決定したため、教育長からの依頼があり、閉校記念事業実行委員会としての事業も担当することとなった。

記念誌は、小倉重起、片倉素和子が中心となり山口仁美校長が事務局を担当し、資料と情報の収集と集約を行った。基本的な編集方針を「江住小学校と地域の歴史と文化を記録として後世に残すもの」とし、『江住小学校百年史』以降の学校と地域の歴史と文化を可能な限り資料として収録することとした。貴重な資料も保存されており、出典や執筆者が不明のものもあったが、参考資料として掲載したものもある。印刷部数600部。

(2)『江住小学校閉校記念碑』の建立

実行委員会の石碑・式典グループは石川明、仲哲生、斧進が担当した。使用した石は地元の天然石。『江住小学校　閉校記念碑　令和五年三月吉日建立』と彫り、揮毫したのは、塩谷福夫氏（旧職員）である。白浜町の壺田石材店に発注した。

(3) 映像記録の編集

実行委員会の映像編集グループは、山形勇真、橋本由紀、永野未訓が担当した。映像編集は、映像制作会社ガダバウツに制作を依頼し、校舎内外の様子、校舎全景、外構などをドローンなどを利用した空撮を含めたものの他に、これまで学校で保存していた写真及び映像記録のあるデータから作成したものである。「江住小学校150周年・閉校記念」DVD（約10分）600枚作成。

記録映像のDVDは、江住小学校沿革史とともに保管。

(4) 学校開放・見学事業





閉校決定に伴い令和５年１月１日～２日まで、地域住民、帰省した卒業生などを対象に、校舎内を開放し、見学の機会を提供した。３階の教室には、学校で保存していた写真、アルバムなどを展示・閲覧を行った。江住・江須之川地域の区内放送及び江住、里野、江須之川においてチラシや回覧板で周知したところ、２日間で約100名の来校者があった。

(5) 江住小学校閉校式及び150周年・閉校記念行事

令和５年３月26日（日）、江住小学校体育館において江住小学校閉校式及び150周年・閉校記念行事を挙行する。

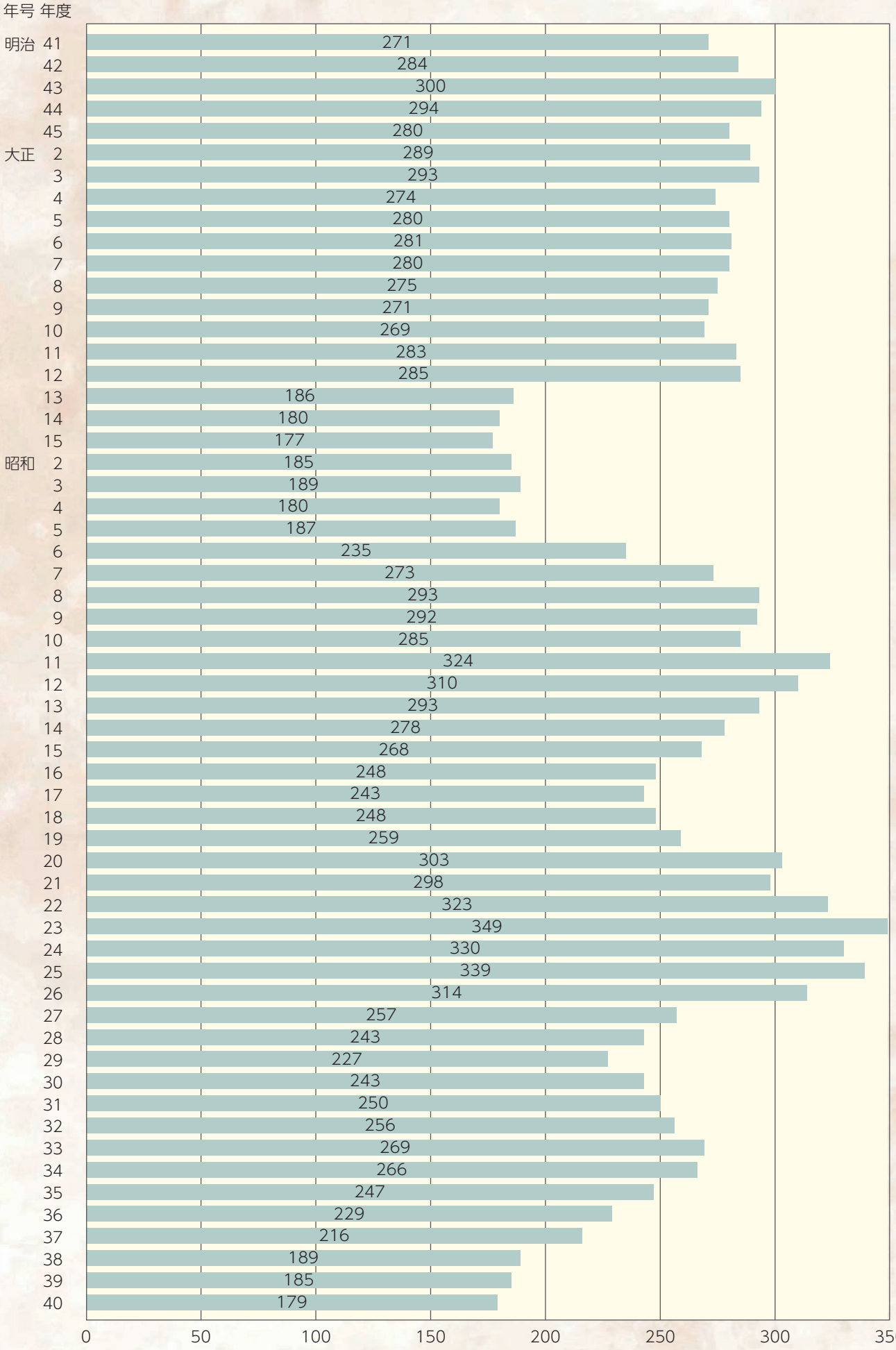
午前９時30分よりすさみ町・すさみ町教育委員会・江住小学校主催の江住小学校閉校式を挙行し、午前10時30分より江住小学校150周年・閉校記念事業実行委員会主催の150周年・閉校記念行事を行った。記念行事では、「卒業生のことば」に続いて、江住小学校150周年・閉校記念DVD（約10分）の映像を上映した。その後、江住小学校閉校記念碑除幕式を行い、餅まきをして終了した。

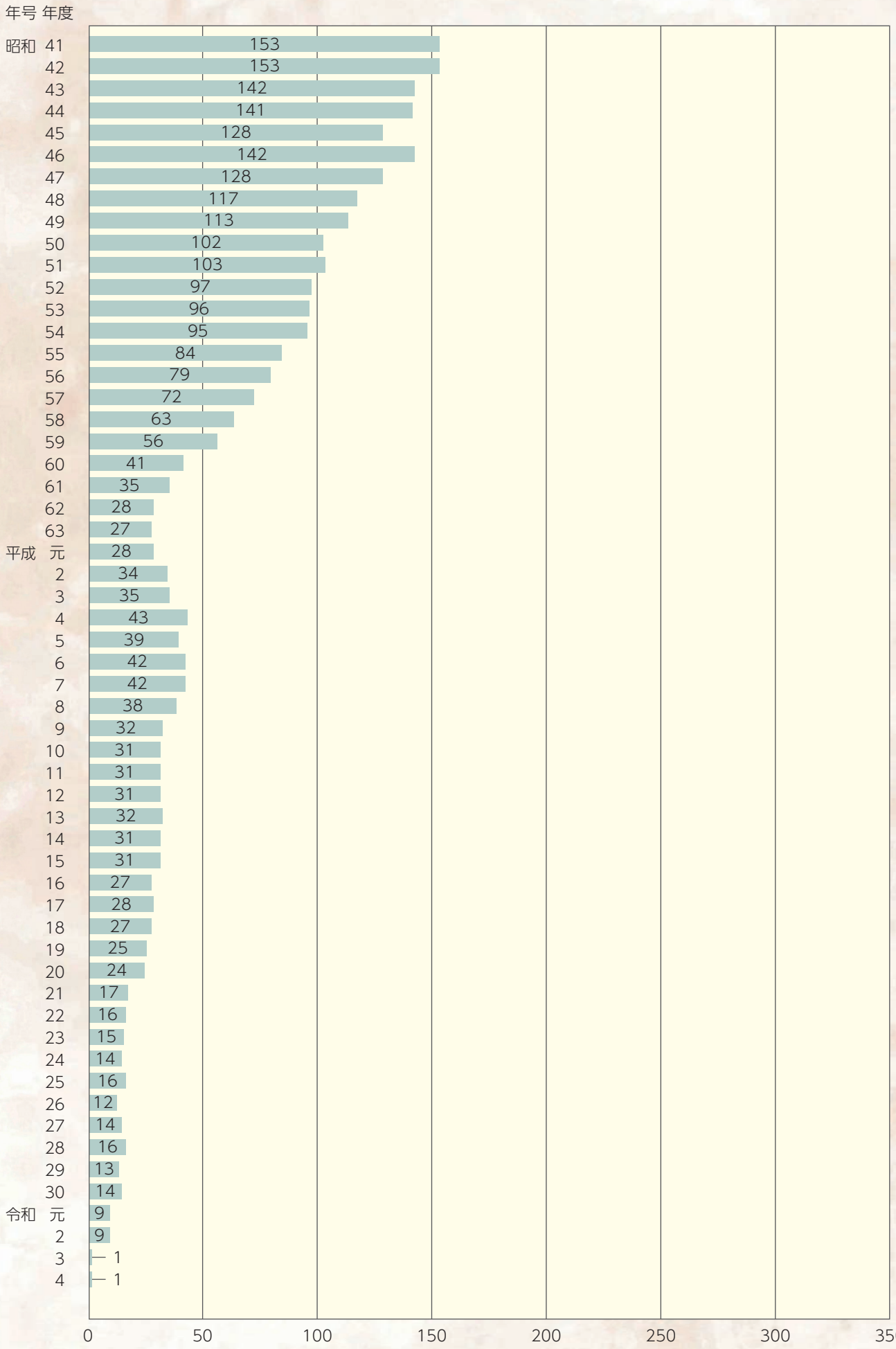
関連資料



昭和48年

児童数の推移


年号 年度
明治 41 271
42 284
43 300
44 294
45 280
大正 2 289
3 293
4 274
5 280
6 281
7 280
8 275
9 271
10 269
11 283
12 285
13 186
14 180
15 177
昭和 2 185
3 189
4 180
5 187
6 235
7 273
8 293
9 292
10 285
11 324
12 310
13 293
14 278
15 268
16 248
17 243
18 248
19 259
20 303
21 298
22 323
23 349
24 330
25 339
26 314
27 257
28 243
29 227
30 243
31 250
32 256
33 269
34 266
35 247
36 229
37 216
38 189
39 185
40 179
0
50
100
150
200
250
300
350



※昭和50年までの児童数は「江住小学校百年史」によるものです。高等科等は含まれていません。

江住、江須之川、里野、大鎌地区の人口及び世帯数の推移

区分 / 地区名	昭和 50 年 (1975 年)		平成 2 年 (1990 年)		平成 17 年 (2005 年)		令和 2 年 (2020 年)	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
江須之川	309	109	190	91	161	83	95	57
江住	639	231	439	190	357	177	240	121
里野	276	116	213	96	178	100	99	58
大鎌	77	27	35	21	16	9	5	3
計	1301	483	877	398	712	369	439	239

：国勢調査



昭和61年9月28日　江住小学校　秋季運動会



昭和51年3月21日　江住小百周年記念事業委員会メンバー



昭和51年3月21日　江住小百周年祝賀会



昭和50年1月 江須ノ川漁港



昭和51年8月　江住灯篭送り、江住海岸



昭和54年5月　江住区遠足（江住遙拝所境内）



昭和61年12月　江住支所



平成6年10月　江住区 祭り



平成6年10月10日　江住獅子舞保存会 子ども神輿新調記念



平成6年1月　江住厄払い投餅、春日神社遙拝所境内



平成10年9月　江住敬老会



江須之川区 祭り



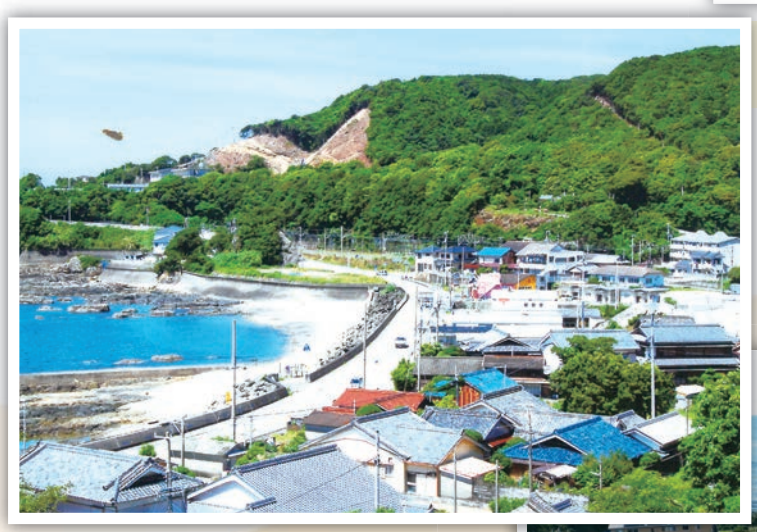
平成20年1月19日
江須崎厄除投餅を終えて、江須崎鳥居前



平成22年1月14日　江住の雪景色



平成24年4月11日
江住海岸に漂着したクジラ



紀勢道開通前の江住



道の駅全景

校地内にある石碑一覧

❶城桂谷先生之碑　大正10年設置(平成11年に校地内に再建)

❷二宮尊徳銅像　昭和29年設置
(昭和14年に設置されたが、昭和16年に太平洋戦争により金属供出された、昭和29年に再建)

❸南弥右衛門翁之像　昭和31年設置

❹頌徳(しょうとく)碑　昭和51年設置　※藤本政太郎氏は五郎氏の実兄
(藤本政太郎氏・藤本五郎氏)

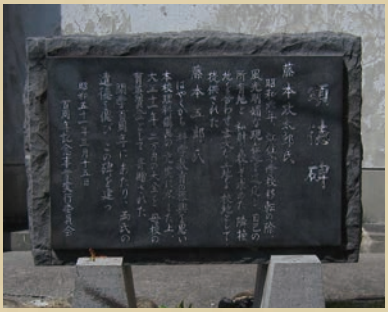
❺江住小学校沿革史碑　昭和51年設置

❻江住小学校閉校記念碑　令和5年3月設置（塩谷福夫氏　揮毫）


❶城桂谷先生之碑


❷二宮尊徳銅像


❸南弥右衛門翁之像

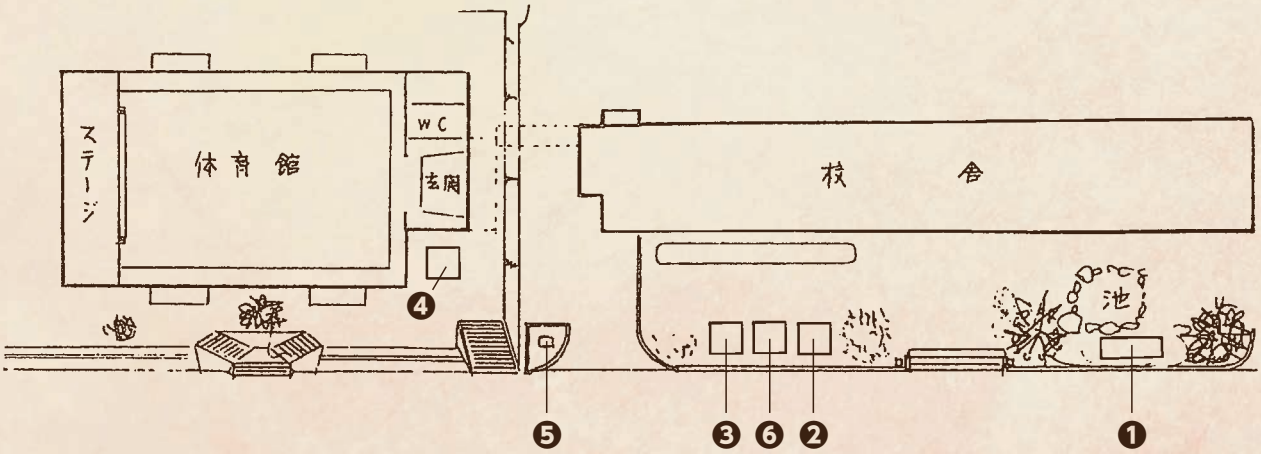

❹頌徳碑


❺江住小学校沿革史碑



❻江住小学校閉校記念碑

石碑配置図



開校125周年を記念して

人物 ― 本校卒業生

平成10年3月15日　江住小学校
本校は明治6年3月15日、潮音寺を借用して開校

城彦太郎(桂谷)

1847年城稲香の長子として生まれる。14才ごろから儒者土井聱牙(ごうが)の私塾に学んで帰郷。明治4年、24才の時第7区第6小区(見老津から橋杭まで22か村)の区長(行政責任者)

明治12年、第1回県議選に立候補して当選。



明治15年秋、近隣の村々に呼びかけ、有志143名からの3955円と私財を投じて、私邸内に寄宿舎を設けて熊野(ゆや)学舎を開校。紀南の中等教育の先鞭をつけた。門下生は53名。明治17年7月7日、学校経営が苦しくなり、串本からの帰り里野(城さんが淵)で投身。37才。城義雄氏(城医院)は孫にあたる。

藤本政太郎

1862年、江住に生まれる。明治27年から29年の間、江住村長。



昭和4年、紀勢線鉄道工事のために、江住小学校移転に際して現在の土地を提供した。(体育館用地は別)現在の土地は現地価に換算すれば1億円を越すといわれる。

藤本五郎

明治7年　江住村に生まれる。政太郎の弟。本校卒業後、和歌山中学校、東京帝国大学工学部卒業。その後アメリカ留学。

帰国後、電気工業界で活躍。本校へ実験器具類を数多く寄贈。



大正11年には2万円の大金を寄附。

政太郎と五郎の二氏の功績を讃えるため、体育館横に頌徳碑が建立された。(百周年記念事業)

南弥右衛門

明治13年12月2日江須ノ川生まれ。

明治19年小学校卒業。20才で結婚。長男弥太郎(1973年勲四等瑞宝章)は大正6年本校卒業。

23才の時マニラへ。マラリア病にかかり帰郷。

25才の時渡米。



サンタマリア平原を開墾し、レタス王と呼ばれるようになった。

昭和30年、勲四等瑞宝章を叙勲。江住中学校体育館、その他多くの寄贈。

昭和31年10月31日、本校校庭において全村2500名の来会のもと盛大なる南像除幕式が行なわれた。

昭和45年、勲三等瑞宝章。

浜中貫始(柑子)

明治18年5月3日江住村に生まれる。

明治42年1月より大正6年まで、本校の教員。ホトトギス同人。江住村長をつとめた藤内常四郎は教え子。

「下萌に鼻すりつけて親子鹿」

「もともと文学者として十二分な天分の上に和漢の学に撤し創作の体験もあり古典に関する幾種かの権威ある著書もあり浄瑠璃実演の隠し芸さえ身につけるという教養に加え人情味豊かに詩作の上に写生の大道に徹した人」(元東京芸術大学教授・浜田氏談)

藤内常四郎(千魚子)



明治44年、本校尋常高等科卒業。

江須ノ川生まれ。

昭和35年、本校育友会長。

江住村村長。ホトトギス俳人。

「皇太子さまのお成りや浜彎樹(はまわんじゅ)」

城佑藏(佑三)



大正10年10月江住に生まれる。

昭和19年病気療養中、藤内千魚子の指導で俳句を始める。昭和21年大野林火の「浜」に所属。「浜」賞を受ける。

昭和48年田川飛旅子の「陸」同人「港の雨祭りの雨となりにけり」

木村正男

明治36年、江住村に生まれる。大正5年本校卒業。

17才の時、米国に渡りロスアンゼルスで野菜マーケットを開く。



戦後フレズノ市でホテルや食料品の経営に着手。多くの留学生の世話をする。

死後、本人の遺志に従い遺族が江住に遺産を贈った。これを原資に木村奨学会が設立。

毎年卒業生に図書等寄贈されている。

濱田音四郎

明治44年11月15日江須ノ川に生まれる。大正15年本校高等科卒業。

昭和元年、横浜の海員高等養成所入学。当時日本最大の客船秩父丸の乗組員となる。

昭和14年に船がホノルルに寄港した際、出航に乗り遅れ、そのままホノルルで生活を送っていた。戦時中はホノルル、ニューメキシコなど米国の収容所を転々とし、終戦翌年に帰国。23年には故郷から上京しアメリカで人気のスナック菓子ポテトチップスの製造会社を興し、商売を着実にのばしていった。



日本ハワイ協会の会長。角界の東関親方を日本につれてきて、日本のお父さんとして育てた。平成3年、新宿区に1億円、世田谷区に5千万円寄附。

平成3年すさみ町特別名誉町民。

平成4年、すさみ町に5千万円、日本赤十字社に千二百万円寄附。

山形繁雄



昭和15年本校卒業。

ロス加州大学留学中、江住村人会1951年結成初代幹事として活躍。

昭和41年本校育友会長

元県会議員

奥村彪生(旧姓三木)

昭和12年江須ノ川生まれ。25年本校卒業。



伝承料理研究家。神戸山手女子短期大学教授。近畿大学理学部中退して土井勝料理学校へ。講師・教務主任を歴任して59年独立。料理教育の功績で大阪府知事賞。新聞・テレビで活躍する他、著書に「日本の食べ物」「復元万葉びとのたべもの」「日本料理秘伝集成」など多数。

校長室書庫に保存されていた3枚の資料

開校126周年を記念して

－ 大扁額 尊徳像と校訓 －

学校創立　明治六年三月十五日、潮音寺を借用して開校、子弟僅か二十名に充たず

平成11年3月15日
江住小学校

大扁額

校舎正面階段上に、江住小学校と書かれた縦72cm横267㎝の大扁額が掲げられています。

この立派な扁額は、だれが、どのようにして書いたものでしょうか。学校沿革史にその記述がみられます。

明治十年　校舎新築　校舎新築す。開校式に県令神山郡廉閣下来臨の栄に浴しけだし県下稀有の校舎と称せられる。閣下揮毫に係る往小学校の一大額を賜る。

また、扁額の左には、「明治壬午夏日
郡廉書之書」と書かれています。



開校126周年資料大扁額

このことから、

『明治10年の開校式に県令(今の県知事にあたる)神山郡廉さんが出席され、新築校舎を「けだし(考えてみると、想像するに)稀有(けう…まれにある。めずらしい。)」と称せられる(ほめてくださる)

郡廉さん揮毫(きごう…筆をふるうこと)の大扁額(だいへんがく…横に長い大きな額)を賜る(いただく)。

壬午(じんご…みずのえうま…明治15年)夏、郡廉がこれを書いた。』ことがわかります。

当時、鉄道もない時代、しかも道路も整備されていない時代に、閣下(かっか…高位高官の人に対する敬称)がこの江住の地にどのようにして、何のために来られたのでしょうか。おそらく、紀南地方にいちはやく開かれた教育への比類なき情熱が、県令をお招きすることになったのでしょう。

和歌山県の誕生　和歌山県の歴史(安藤精一)より

明治4年(1871)7月の廃藩置県にともない、和歌山・田辺・新宮の三藩は、それぞれ和歌山県・田辺県・新宮県となる。同年11月に田辺県・新宮県は和歌山県に統合された。

県令

明治４年11月から５年１月まで	津田正臣
明治５年１月から６年10月まで	北島秀朝
明治６年10月から16年10月まで	神山郡廉

二宮金次郎　松山市造著(ポプラ社)より

あなたは、きっと、本がすきな人でしょうね。この本の主人公の二宮金次郎も、本がだいすきでした。

けれども、金次郎は、うちがびんぼうでしたから学校へ行くことができません。それどころか、うちのお手つだいをしなければなりませんので、本を読むひまがありません そこでしごとをしながら、本を読みました。だれにもおそわらずに、ひとりで読みました。むずかしいところがあると、ひとりで考えました。本のなかみがわかってくると、こんどはほんとうにそうだろうかと考えたりしました。このようにして、いっしょうけんめいべんきょうしたおかげで、たいへんりっぱな人になりました。

どんなりっぱな人になったのかって? それはこの本を読んでくだされればわかります。二宮金次郎(1787~1856)

尊徳像と校訓

校庭に南弥右衛門像と並んで尊徳像が建っています。



戦前の学校では、よくこの尊徳像がみられたようですが、戦後の学校でみられるのはめずらしく、建っている学校は数えるほどだと思います。

この像はどのようにして建ったのでしょうか。

学校沿革史に次のように載っています。

昭和十四年
二宮尊徳翁銅像建設
十月二十七日　本日除幕式をなす。江住灘吉丸船主滝本五郎吉氏本年六月第三号灘吉丸進水に際し祝賀宴を催し当校に金壱百円を寄附せられたるが、これを有効に使用せんとて同氏に交渉のところ快諾。これに追加し、二宮尊徳翁の銅像を購入建設。

また、校訓については、次のように載っています。

昭和十四年　校訓改訂「至誠実行」
十月二十七日　当校従来の校訓は「本分を守れ」なりしが、今回大楠公と二宮尊徳像の建設により当校訓育の目標確立、校訓の改訂をなす。
根拠　当校目標の偉人代表
楠木正成公、乃木将軍、二宮尊徳
楠木精神　尽忠報国　滅私奉公、誠忠
二宮精神 至誠と実行
右より当村民の実情、海外発展の特性等より考察して前記の通り改訂す。

このことから、「当校には、楠木正成像と二宮尊徳像が建っていましたが、当村民の実情、海外発展の特性等より考慮して二宮精神を校訓とした」ことがわかります。

ところが、この尊徳像は太平洋戦争の金属類供出で昭和16年12月に撤去されます。楠公銅像も昭和18年に応召されます。

昭和十八年　楠公銅像応召　十二月五日　金属回収により本校楠公銅像も応召(藤内佐五郎氏寄贈)、赤タスキをかけ児童に運搬せしめ、江住駅まで見送る一般村民に多大の感激を与う。

戦後の混乱期からようやく脱却しはじめた頃、尊徳像は再建されます。

昭和二十九年　二宮尊徳銅像除幕式　四月八日　滝本五郎吉氏寄贈の尊徳銅像除幕式を行なう。

至誠実行(しせいじっこう)広辞苑より

至誠…①きわめて誠実なこと　②まごころ
実行…実際に行なうこと

校長室書庫に保存されていた３枚の資料

開校127周年を記念して
－ 桂谷と関係のあった人物 －

学校創立　明治六年三月十五日、潮音寺を借用して開校、子弟僅か二十名に充たず

平成12年3月15日
江住小学校

明治のはじめ、紀南地方でいちはやく中等教育の先鞭をつけた人物がいた。**城桂谷**である。彼は江住に熊野(ゆや)私学校を創立し、幾多の人材を養成し世に送り出した。

大正10年、彼の遺徳を偲ぶため門下生らは碑を建立した。

潮音寺寺山にあったその碑は台風により倒伏していたがこの度、桂谷碑再建委員会(仲邦和代表)によって、平成11年7月20日、江住小学校校庭に移転再建された。

なお、この碑は町文化財に指定された。





大正12年笠松に建立当時の頌徳碑

城彦太郎(桂谷)（1847～1884）関係年表

西暦	和　暦	年令	事　　項
1847	弘化４	0	城稲香の長男として江住で生まれる
1849	嘉永元	1	・小幡楽山生まれる
1850	嘉永２	2	・児玉仲児生まれる
1852	嘉永６	6	☆ペリー浦賀に来航
1854	安政元	7	・土井聱牙塾を開く
1862	文久２	15	土井塾へ入門
1866	慶応２	19	土井塾から帰郷
1867	慶応３	20	代官所在銃隊教授方になる
1868	明治元	21	☆明治維新
1869	明治２	22	・父稲香民政局判事になる
1871	明治４	24	民政局史生(書記)になる
1872	明治５	25	第７区第６小区長になる
1873	明治６	26	●江住小学校創立☆潮岬灯台開設
1874	明治７	27	・神山郡廉県令になる
1876	明治９	29	☆廃刀令
1877	明治10	30	江住小学校開校式に神山県令来臨
			・児玉仲児猛山学校創立
1879	明治12	32	第1回県議選に当選
			・児玉、浜口も当選
1880	明治13	33	父稲香亡くなる・土井亡くなる
			熊野学舎創立準備はじめる
			児玉浜口らと国会開設議書を提出
1881	明治14	34	浜口らの木国同友会に所属
1882	明治15	35	・８月神山の「江住小学校」扁額を賜る
			●１０月熊野学舎創立　門下生５３人、教師に小幡、深見を迎える
1883	明治16	36	熊野学舎の県立許可申請運動はじめる　５月県議を辞める
			・１０月神山県令を離任
1884	明治17	37	串本へ資金集めにでかける
			７月７日帰路里野浦で投身自殺
			熊野学舎閉校

土井聱牙(ごうが) 1817~1880

桂谷の師。儒学者。名は有格。伊勢・津の生まれ。明治2年~4年津の藩校有造館の第5代校長となった。中国の歴史、地理に明るい。奇行に富んだ市民的学者として土地の人々に親しまれ、その奔放な書画は今でも珍重されている。「聱牙遺稿」10巻は、彼の死後に門人が集めたもの。－世界大百科事典(平凡社)より抜粋－

児玉仲児 1849~1908



桂谷より2歳下で土井塾の同期生。また第1回県議選にも同じように当選している。

桂谷が熊野学舎を創立した時に、教授陣として千田一十郎を派遣し、協力した。

那賀郡中山村(現粉河町)の庄屋に生まれた。9歳で高野山で学を修め、14歳のとき学僧に伴われて奥州地方を視察見学。明治6年には慶応義塾に入学。卒業後、大蔵省記録局主任。退官し明治9年、政府の地租改正の不当を批判し、県令神山に陳情。更に内務郷大久保利通に農民の窮状と県令の悪政を建白した。

明治15年に県会副議長、18年に議長、23年に衆議院議員。

明治10年に粉河に猛山学校を創立した。

神山郡廉 1829~1909



高知県士族の生まれ。39歳の時、土佐藩より命を受け、後藤象次郎らと大政奉還王政復古の 儀を徳川慶喜に建白した。明治6年、和歌山県(今の県知事)になった。気骨な人で、桂谷が熊野学舎の県立許可申請を行なったが聞き入れなかった。明治10年、江住小学校の開校式に来臨し、後、揮毫の「江住小学校」を贈った。この扁額は今も本校に掲げられている。

浜口梧陵 1820~1884



有田郡広村(現広川町)に生まれた。名は成則。梧陵の家は代々湯浅醤油の醸造元で千葉県銚子に進出していた。30歳の時、江戸に出て開国論を主張した。慶応2年、耐久学舎(現耐久高校)を設立、青年教育にあたった。明治元年、和歌山藩勘定奉行。1854年にあった安政地震は湯浅湾に大津波が押し寄せたが、その時、被災者の避難と応急救助に全力をあげた話「稲村の火」は戦前の教科書に掲載されて有名である。

明治12年の県議選で当選し、初代議長となった。同14年には木国同友会を結成して会長となり、政治意識を高めて国会の開設にそなえた桂谷もこの会に所属していた。

小幡儼太郎　1848~1908



桂谷より1歳下。熊野学舎の教授陣として桂谷に協力した。

和歌山の生まれ。父は田辺藩士。号は楽山。桂谷と同じように土井塾で7年間学び田辺に帰った。明治15年から同25年まで県会議員をつとめ、紀南の開発に力をそそいだ。27年に衆議院議員に当選した。

かつて東京大学文科教授に推されたが、固辞して受けなかった。

深見確 1859~?

小幡に漢学を学んだ。小幡の推薦で熊野学舎の教師になる。「桂谷先生の碑」の碑文をつくった。明治26年には2代目の田辺町長になっ ている。

辻恒民 1869~1942

桂谷の門下生。大正14年から昭和4年まで江住村長を勤めている。「桂谷先生の碑」の建立発起人。

校長室書庫に保存されていた３枚の資料



大鰐地区から10㌔の峠越え江住小へ

1年生の辰己麻緋ちゃん

たった1人でタクシー通学

JR江住駅からは友達と歩いて通学

過疎地の通学を守る

紀伊民報：1998年（平成10年）10月29日（木）



紀伊民報　2010年(平成22年)8月21日　土曜日　第20367号　(10)

郷土の灯

江住小学校

29

学校と地域の物語

地域の優しさに包まれて

一緒に仲良く下校する子どもたち

沿革

1873年　願音寺を借用して開校
1877年　校舎新築
1885年　通修小と改称、その後数年で江住小に戻る
1906年　現在のJR江住駅付近に新築移転
1931年　現在地に新築移転
1941年　江住国民学校に改称
1947年　江住小学校に改称
1971年　里野小学校と統合
1972年　新校舎完成
1978年　大鰐小学校と統合

1877年の江住小学校落成式に出席した神山郡廣県令直筆の書

●開校は学制発布翌年

●校歌

朝夕あおぐ　清水山
すがたは高く　かげ清く
動かぬ力　大空に
雨風しのぎ　そびえ立つ
いざや江住の　学びどよ
世にたぐいなき人となれ

1930年(この翌年、作詞作曲者は不明ながら、作詞は歴代校長の中で最初期（1915～20年）を務めた高岡という説がある。戦時中は一時、国家主義的な歌詞に書き換えられた。

●国正医師

●教育熱心な土地柄

●積極性や体力を強化

●地域で子ども見守る



紀伊民報 2007年(平成19年)12月14日 金曜日 第19544号

ふるさと探訪
すさみ町江住
28

すさみ町江住は、山が海岸に迫り、平地が少ない。農地も少なく、良好な港がなかったことから、多くの人たちが生活の場を求めて外へ飛び出した。米国など海外では農業で、京阪神では綿業市として成功した人が多い。その進取の気性、不屈の精神は、まだ、脈々と受け継がれている。（畠原弘次）

地元の偉人、南弥右衛門統の胸像を囲む江住小学校児童

受け継ぐ郷土の誇り
米移民の南弥右衛門

地元の小高い丘に25人で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」の銅像が建つ江住小学校がある。校舎横に胸像を見つけた。南弥右衛門と銘板にあり、「郷土の偉人」とある。開けば江住からの米移民の一人のことだという。

国に貢献し、農業や貿易で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」南弥右衛門統。

地元の小高い丘に25人で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」の銅像が建つ江住小学校がある。校舎横に胸像を見つけた。南弥右衛門と銘板にあり、「郷土の偉人」とある。開けば江住からの米移民の一人のことだという。

国に貢献し、農業や貿易で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」南弥右衛門統。

地元の小高い丘に25人で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」の銅像が建つ江住小学校がある。校舎横に胸像を見つけた。南弥右衛門と銘板にあり、「郷土の偉人」とある。開けば江住からの米移民の一人のことだという。

国に貢献し、農業や貿易で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」南弥右衛門統。

地元の小高い丘に25人で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」の銅像が建つ江住小学校がある。校舎横に胸像を見つけた。南弥右衛門と銘板にあり、「郷土の偉人」とある。開けば江住からの米移民の一人のことだという。

国に貢献し、農業や貿易で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」南弥右衛門統。

海岸に山が迫る江住のまち

「アメリカさん」や「煮豆屋さん」らの寄付で再建された春日神社江住遥拝所

地元の珍しい海の生き物が楽しめるエビとカニの水族館

200種以上の亜熱帯性植物の原生林がある江須崎

不屈の精神受け継ぐまち

人 ひと 人 見どころ

JR江住駅 地域で守る玄関口

JR江住駅は、簡易化とともに無人になった。地域の人が協力して、江住の玄関口を守っている。

自称とも「応援する駅人」。森口正一さん（85）は「駅舎に出た子どもらが帰ってきた時、ほっとしてほしい」と、80年から、駅の清掃を続けている。

公民館の会員13人は「利用者に美しくもらいたい」と月1回ほど、駅舎を掃除している。

「江住駅を愛する会」を結成した、南紀熊野ロイヤルホテルの後藤敏晴・総支配人（48）が教えてくれた。

近年は生徒数が減り、地元の年配の人が、当時の様子を語り聞かせる機会にしようと、駅舎を開いて思い出の写真などを展示している。

美容室3店、理容店2店

江住川沿いに広がる毛地の中心部に、美容室3店、理容店2店が軒を連ねている。

かつては住民はほとんどが農業や漁業に従事。多くの人でにぎわった。山間部の人は「まちに出たついでにおしゃれをする」。理美容店が多いのはその名残という。

「理容シルバー」も長い。2代目の田中敏さん（65）が店を守る。「今はいちげんさんはいない。何十年と通う人ばかりと田中さん。常連が気さくに声をかけ、昔の情報を交換する場にもなっている。

森下酒店 国道沿いピンク色の建物

国道42号沿いにあるピンク色の目立つ建物は地域の人が頼りにする「森下酒店」。2代目の森下貴之さん（48）と妻の千弘（44）が営んでいる。

新婚当初は「ハイカラ」、あこがれだった「ロイヤルハウイアン」は古くて怖くなかった。特徴ある頑丈なピンク色の建物が印象に残った、それを受け継ぎ、店では酒以外に食品や釣り道具、不思議な雑貨なども売っている。

「酒屋さんは、なんでもあるね、取り寄せてほしいわれて仕入れ、並べてみたものの、売れないものが多かった。

日本童謡の園公園

日本童謡の園公園は、数多くの詩を書いた野口雨情が晩年に訪れたり、「大きな古時計」の作詞をした作詞家の保富康午さんがすさみ町出身であったりしたことなどから、1989年10月、日本初の童謡の公園として開設された。

ブロンズの人形や歌碑があり、センサーが反応して童謡が流れる。「まりと鈴緒」「七つの子」など計10曲が流れ、園内を歩くだけで、懐かしい気分になれる。

次回は田辺市浦神周辺です。

Merry Christmas
プレゼントに、かわいいお洋服やバッグなどいかがですか
★ラッピング無料です
ジュニア&子供服
CELGE セルジュ
BOYS&GIRLS 100cm～160cm
TEL0739-24-0308

明洋団地 売土地 稲成町
有限会社 ヒロセ
〒646-0031 田辺市湊716-2 TEL26-6800

おいしさ絶品！
ちょっぴり贅沢な おせち料理 只今予約承り中
地元産を取り入れ、郷土の味を満載しています
●おせち重箱付
三段重（3人～5人前） 30,000円
二段重（2人～3人前） 20,000円
一段パック（1人～2人前） 10,000円
●さんま寿司……1本 525円
●さば棒寿司……1本 1,050円
●上巻寿司……1本 840円
●ひとはめ寿司…1本 525円
ご予約は TEL22-0834
宝来寿司
ひとはめ寿司本舗
TEL(0739)22-0834 FAX(0739)24-5041

看護師さん募集!!（若干名）
詳細は面談の上お話しいたします
ご希望の方は履歴書（写真貼付）を下記まで郵送下さい
追って面接日等連絡いたします
スマイリング訪問看護ステーション
〒646-0051 田辺市稲成町411-2 Tel.25-5132

今年一年間お世話になりました。
○印の日がお休みです。
12月 日 月 火 水 木 金 土
16 17 18 19 20 21 22
23 24 25 26 27 28 29
2008年 1月
30 31 ① ② ③ ④ 5
老化予防のカラーリング
ワカヤマ本舗
TEL0739-26-8556

この冬一足はやく幸せ気分
花みつのいちご大福
数量限定
12月14日・15日・16日の3日間 全店同時開催！
大きく新鮮なイチゴを丸ごと使った花みつ特製のいちご大福です
通常価格1個136円を 幸せ価格 1個105円（税込）
年末年始のごあいさつに
店内多数展示中！
花みつ HANAMITSU

郷土の偉人の生涯劇に

地域学習発表会で披露

すさみ 江住小



劇「南弥右衛門物語」を演じる児童（すさみ町江住で）

すさみ町の江住小学校は10、11月、校区内の江須之川、里野、江住の各地区で地域学習発表会を開いた。全校児童9人は郷土の偉人、南弥右衛門の生涯を描いた劇を地域住民に披露した。

江住小は毎年、学習発表会で地域住民に作文や歌などを発表し、地域住民と親睦を深めている。本年度は山口仁美校長が脚本を書いた劇「南弥右衛門物語」に挑戦した。

南弥右衛門は江住村出身。明治時代に渡米して農業や貿易で成功した。戦後も江住の子どもたちに文房具などを贈ったり、江住中学校の体育館（現・町立エビとカニの水族館）を寄贈したりして遠く離れた故郷を思いやった。江住小には弥右衛門の胸像が設置されている。

江住公民館には、江住地区の住民ら30人ほどが集まった。劇では、児童は着物や法被を着て登場し、ダンスや歌を交えながら、南弥右衛門の生涯と他の移民に与えた影響、江住への貢献を伝えた。

参加住民との懇談会では、南弥右衛門と会ったことがある人が数人おり、エピソードを聞くことができた。他にも児童は作文の発表や合唱を披露した。

5年生で児童会長の吉田侑月さん（11）は「発表会は地域の人たちとの触れ合いとなる良い取り組み。南弥右衛門さんについて詳しく知らなかったので偉業が知れて良かった」と話した。

すさみ町周参見の宇井清子さん（72）は「発表会は地域の人たちとの触れ合いとなる良い取り組み。南弥右衛門さんについて詳しく知らなかったので偉業が知れて良かった」と話した。

紀伊民報：2019年（令和元年）11月22日（金）



紀伊民報 1999年(平成11年)12月11日 土曜日 第17082号 (16)

江住小

シマリス8匹を飼育中

児童らが愛情を注ぐ

かわいいシマリスはどもたちの"人気者"。すさみ町立江住小学校（橋本幸校長）では現在、八匹のシマリスを飼育しており、飼育・環境委員会の児童らが熱心に世話を続けている。昨年、今年と春先のベビーが計六匹も誕生。小屋の中を元気に走り回ったり、愛らしいしぐさでひまわりの種などをほおばっている。

平成九年の夏、リスに詳しい奈良県天理市の鈴木次男さんが、つがいのリスを同校に寄贈したのが始まり。校舎の側には、広さ約四平方㍍の飼育小屋が設置され、児童の金網を近くの木まで伸ばし、その中をリスたちが自由に行き来できるようにと工夫もされている。

昨年産まれた三匹の赤ちゃんリスは、全校児童から名前を募集した結果、それぞれエッピー、スッピー、ミッピーと命名された。今では、小屋の中を動き回ったり、ひまわりの種をおいしそうにほおばるリスを見ても、親子の見分けがつかないほどに成長。ただ、無事に成長するリスもいれば、小屋の網目から侵入したヘビにのみ込まれてしまったかわいそうなリスもいるという。

手のひらからエサを与えるなど、リスもすっかりなついている四年生の岸井あやかちゃんは「食べ物をあげたら、リスがたくさん集まってくるのでうれしい。エサをあげるのが楽しみ」と笑顔で話していた。飼育委員会のメンバーは当番を決め、休憩時間を利用してエサやりや水やり、小屋の掃除を行っている。

かわいがっていたリスに死なれ、つらそうに窓を作る児童の姿もあった。「リスを育てることで、生き物を大切にする優しさや思いやりを身につけてくれた」と橋本校長は話す。田辺・日置地方の小学校で飼っているリスと結婚させる計画もあるという。

ひまわりの種をおいしそうにほおばるシマリス

校舎の近くには立派な飼育小屋が設置されている（江住小学校で）

紀伊民報：1999年（平成11年）12月11日（土）



紀伊民報　2020年(令和2年)12月4日 金曜日　第23519号　日刊

紀南中等教育の先駆け

城桂谷の演劇披露

すさみ 江住小児童9人

すさみ町の江住小学校（山口仁美校長）はこのほど、同町の江住公民館で、保護者や地域住民を招いた地域学習発表会を開いた。全校児童9人が、紀南地方での中等教育の先駆けとなる「熊野（ゆや）私学校」を開いた江住出身の城桂谷（じょう・けいこく）を題材にした劇を披露した。

城桂谷は1847年生まれ。初代県会議員を務め、82年に紀南初の中学校「熊野私学校」を開いた。熱意と功績をたたえる顕彰碑が江住小学校の玄関前に建てられている。

劇は、城桂谷の生涯を題材にした。児童は「江住村に生まれ、子どもの頃は彦太郎という名前でした」などと解説を交えながら、城桂谷が熊野私学校を開くまでの経緯や、学校を続けるための資金集めがうまくいかず海に身を投げた場面などを演じた。

城桂谷役を演じた5年生の日下瑛心君（11）は「資料を読んだり、顕彰碑に書かれていることを勉強したりして、城桂谷さんについて調べてきた。すごく教育について熱心に考えていたことが分かり、自慢に思う。もっといろんな人に知ってもらいたい」と話した。

地域学習発表会は、江住公民館を含めて地域の計3カ所で開いた。

劇「城桂谷物語」を披露する江住小学校の児童（すさみ町江住で）

紀伊民報：2020年（令和2年）12月4日（金）



すさみ・江住小

住民参加で「みんなの学校」

音楽の授業、合奏を楽しむ

すさみ町の江住小学校は、児童と住民が交流する機会にしようと、住民参加型の授業「みんなの学校」を月1回のペースで開いている。11月の教科は音楽。さまざまな楽器を使って、皆で合奏を楽しんだ。

本年度、江住小学校に通っているのは2年生の山形光さん（8）だけ。学校は山形さんに人との関わりを大切にしてもらいたいと、校区内の住民に参加を呼び掛けて、5月から月1回、学校で「みんなの学校」を開いている。毎回5～6人の住民が参加しており、音楽のほか、これまで絵手紙やフラワーアートの体験をした。

音楽の授業に取り組んだ11月の「みんなの学校」では、まず担当教員が児童の山形さんの他、山形さんの母親の直美さん（41）を含む参加者5人の名前を一人ずつ呼び、出席をとった。

授業では最初に、リズムの勉強をしている山形さんが、教員と一緒にウッドブロックやカスタネット、マラカス、タンブリンなどの打楽器を実演を交えながら紹介した。

その後、木琴やタンブリンなどそれぞれが好きな楽器を使って、合奏曲「山のポルカ」に挑戦。山形さんが鍵盤ハーモニカでメロディーを吹き、合奏をリードした。

参加した水谷守さん（83）は「学校で子どもと一緒に過ごせて、大変楽しかった」と笑顔を見せた。直美さんは「学校での娘の様子を見た住民の方に『光ちゃん、よう頑張ってるね』などと日頃から声を掛けてもらえ、とてもありがたい」と話した。

山口仁美校長は「回を重ねるごとに親しくなり、交流が深まっていると感じる。住民の皆さんとのコミュニケーションを通じて、児童にも良い変化が見られる」と話している。

次回の「みんなの学校」は12月16日。人権について考える道徳の授業を開く予定という。

「みんなの学校」の授業で、さまざまな楽器を使って合奏する児童や住民（すさみ町江住で）

紀伊民報：2021年（令和3年）12月2日（木）
※「みんなの教室」

株式会社 紀伊民報様のご厚意により、記事を掲載させていただきました。

木村正男さんのご遺志から創設された木村奨学会

江住小学校150周年を記念するこの年が奇しくも江住小学校閉校の年となってしまいました。この度、江住小学校150周年・閉校の記念行事を行うにあたり木村奨学会の全面的ご支援を賜ることとなりました。心から感謝申し上げますとともに木村正男さんを偲びそのご遺志である木村奨学会をここに紹介します。



木村正男さん夫妻

故木村正男さんは14歳で渡米されましたが見ず知らずの外国で言葉は通じないしかも当時は珍しくなかったものの密航者であったことからあらゆる辛酸をなめる日々であったとのことです。そのご苦労の中にあって常に勉学を志し「人生は死ぬまで勉学である」との信条をもって貫き毎日2時間ずつの読書を欠かさず続けられたそうです。

昭和52年11月16日不幸にして凶弾に倒れカリフォルニア州フレズノの地で74歳の生涯を閉じられましたが若くして郷里をあとにしたにもかかわらず愛郷心が強く故郷の風物を愛し日常は故郷の方言を使い通されたそうです。そしていつの日か故郷のために少しでも貢献したいとの情熱を燃やし続けておられました。

志半ばにして突然のご逝去ではありましたがご遺族の方々が木村正男さん生前の日常の言動からそのご遺志をおもんばかり昭和53年3月、故郷の子弟奨学の用にと二千万円をご寄付くださり、これを基金に木村奨学会が創設されました。

以降、江住小学校と江住中学校の卒業生に毎年卒業記念として辞書を贈呈、学業やスポーツで著しい成果が認められた児童・生徒達に対しては功労賞を贈呈いただき、かくも長年にわたり江住小学校、江住中学校の教育活動に対するご支援を続けてくださいました。

そしてこの度、江住小学校150周年と閉校の記念事業を同日に行うにあたりこのような全面的ご支援を賜れることとなり感無量であり感謝の念に堪えません。卒業生はもとより保護者、地域の住民の皆様に成り代わり心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

江住小学校150周年・閉校記念事業実行委員会

木村正男さんの略歴

1903年7月9日（明治36年）
江住村大字江住
父 木村栄四郎
母　　く　に　　の長男として生まれる。

1917年(14才)(大正7年)
江住尋常高等小学校卒業。

1917年
米国シアトル市に上陸、以後スクールボーイとして働きながら高校卒業。
その後も農場 製材所、鉄道建設現場等で日雇労務者として就労。

1924年(21才)
自力で農業を経営。

1930年(27才)
ロスアンゼルスに転住、野菜店、食料品店に就職。

1935年(32才)
自力で野菜店を開業後徐々に拡張して小型スーパーとして経営。

1942年(39才)
日米戦争のため店は没収されコロラドキャンプに収容される。

1945年(42才)
収容所から解放される。

1946年(43才)
加州フレズノ市に於いてホテル開業。

1947年(44才)
同市に於いてコロンビア食料品店を開業。

1950年(47才)
同市に於いて店を4倍に拡張しスーパーマーケットとして経営。

1961年(58才)
店を更に4倍に拡張して同市最大のスーパーマーケットとして現在に至る。

1977年(74才)(昭和52年)
11月16日死亡。



木村正男さん経営のボーイス マーケット

「100周年から150周年へ」



100周年事業に参画した私が、50年を経て今回の150周年事業に実行委員として取り組ませていただいていることは、幸せで感慨深いものがあります。

当時、育友会あげての取組でしたが、その中心となって活躍した７人(校長、教頭を含む)のうち４人の方々は鬼籍の人で50年の歳月を感じます。私は主として百年史の編集にあたりましたが、明治から昭和、特に戦中戦後の激動の時代の江住小学校と江住地域の変遷を記録するため、地区内での資料集めや聞き取り調査等に約１年余り費やしました。

７人のメンバーは事業の理解をいただくために地区懇談会を開くとともに事業資金等の協力を仰ぐため、当時、隆盛期にあった京阪神地区の煮豆屋さんをはじめとする卒業生のみなさんを訪問したり、現地での集会に足を運びました。

記念式典には江住小学校に在勤されていた多くの先生方や卒業生が出席され、新装なった体育館が地域からの参加者や在校生で満席になる盛況でした。

佐本地区に移住していた元大阪フィル所属の音楽家の指導を受けて、この日のために練習を重ねてきたお母さん達が見事な歌声を披露、来場くださっていた県警察音楽隊の演奏もあり会場は大変な盛り上がりでした。特に在校生が当時流行していた「およげ！たいやきくん」を音楽隊の伴奏をうけて、声をはりあげていたのが印象的でした。

今回も山口校長先生と共に本誌の編集に当たらせていただきました。昭和51年以降の卒業生の中の11名のみなさんから在校時の思い出等の寄稿をいただき、当時在籍されていた先生方の代表６名の方にも寄稿いただきました。それぞれが江住小学校への熱い思いを彷彿とさせる文章で本誌をより充実したものにしていただきました。ご協力ありがとうございました。

51年以来の50年間は児童数の減少が続き、地域も過疎、高齢、少子化の進行が著しいものでした。しかし、近年、高速道路の開通や道の駅、水族館、コンビニ、ホテル等の進出があり、地域を取り巻く情勢も新たな変貌をとげつつあります。

この江住小学校も急激な過疎と少子化のため、今年度で閉校の運命で、卒業生の一人として断腸の思いですがこれも時代の趨勢です。近隣の中でも有数の歴史と伝統を持つ本校の歩みが、この150周年記念誌により末永く江住地域の文化遺産となることを祈念するものです。

江住小学校150周年・閉校記念事業実行委員会

小倉　重起（昭和23年度卒業生）

江住小学校 150 周年・閉校記念事業実行委員会名簿

山形　勇真	実行委員会委員長、運営委員 (映像編集)	平成　9年度卒業	江住小学校育友会長
石川　　明	実行委員会副委員長、運営委員 (石碑･式典)	昭和 39 年度卒業	江住区長、木村奨学会役員
小倉　重起	運営委員 (記念誌編集)	昭和 23 年度卒業	江住小学校百年史編集責任者
冨永　　弘		昭和 24 年度卒業	江住公民館長・保郷会、木村奨学会会長
竹本　源一		昭和 34 年度里野小卒業	里野区長
田中　　徹			平成 15 ～ 17 年 校長
村上　利博		昭和 41 年度卒業	平成　7 ～ 16 年 教頭
片倉素和子	運営委員 (記念誌編集)	昭和 41 年度卒業	木村奨学会役員
山形　　勇		昭和 48 年度卒業	江須之川区長、木村奨学会役員
仲　　哲生	運営委員 (石碑・式典)	昭和 54 年度卒業	
斧　　進	運営委員 (石碑・式典)	昭和 56 年度卒業	木村奨学会役員
橋本　由紀	運営委員 (映像編集)	昭和 56 年度卒業	学校運営協議会委員
永野　未訓	運営委員 (映像編集)	平成 20 年度卒業	
佐々木宏枝			学校運営協議会委員、元江住小育友会長
山口　仁美	事務局、運営委員 (記念誌編集)		江住小学校長

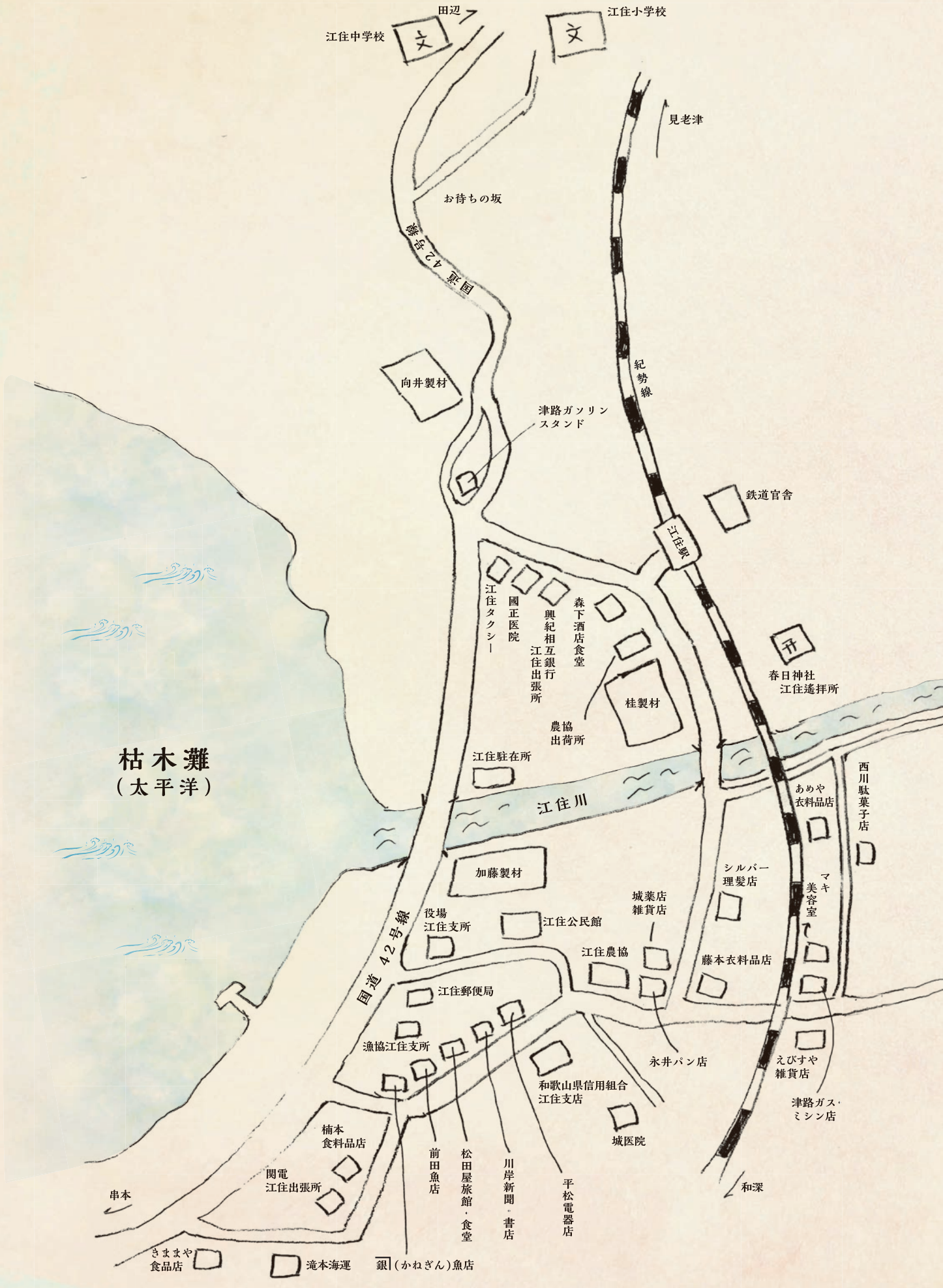
表紙題字　橋本由紀

参考資料一覧

『江住小学校百年史』昭和 51 年 3 月 15 日発行
『すさみ町史』下巻　昭和 53 年 8 月 10 日発行
『南弥右衛門翁 叙勲記念』南翁銅像建設発起人会　昭和 32 年 4 月 20 日発行
『城桂谷と熊野私学校』　桂谷碑再建委員会　平成 11 年 7 月 20 日発行
『江住 1963』ESUMI-SONJIN DIRECTORY　米国カリフォルニア州江住村村人会　昭和 38 年発行

すさみ町立江住小学校 創立百五十周年記念誌

発　行　日　2023年(令和5年) 3月 26 日
発　　行　すさみ町立江住小学校
〒649-3142 和歌山県西牟婁郡すさみ町江住 670
TEL：0739-58-0008
編　　集　江住小学校150周年・閉校記念事業実行委員会
制作・印刷　株式会社マージネット
TEL：0739-83-3344


田辺
江住中学校
江住小学校
見老津
お待ちの坂
国道42号線
向井製材
津路ガソリンスタンド
紀勢線
鉄道官舎
江住駅
江住タクシー
國正医院
興紀相互銀行江住出張所
森下酒店食堂
桂製材
農協出荷所
春日神社
江住遙拝所
江住駐在所
江住川
西川駄菓子店
あめや衣料品店
シルバー理髪店
マキ美容室
加藤製材
城薬店雑貨店
役場江住支所
江住公民館
江住農協
藤本衣料品店
国道42号線
江住郵便局
漁協江住支所
永井パン店
えびすや雑貨店
和歌山県信用組合江住支店
津路ガス・ミシン店
城医院
楠本食料品店
関電江住出張所
串本
前田魚店
松田屋旅館・食堂
川岸新聞・書店
平松電器店
和深
きままや食品店
滝本海運
銀(かねぎん)魚店
枯木灘
(太平洋)

昭和34年頃～40年頃

江住市街図

江住：小倉重起氏 提供

